

資料編

(大規模避難所版)

(様式等作成例)

【避難所開設時のチェックリスト】

項目	主な対応内容
<input type="checkbox"/> 1. 避難所の開設・点検 (P.6)	施設の安全確認など
<input type="checkbox"/> 2. 避難所運営組織の立ち上げ (P.6)	避難所運営の中心人物を選出
<input type="checkbox"/> 3. 居住グループの編成 (P.7)	世帯を基本単位に居住グループを編成
<input type="checkbox"/> 4. 部屋(区画)割り (P.7)	施設管理者と協議し、利用する部分を明確にする
<input type="checkbox"/> 5. 避難者名簿の作成 (P.8)	世帯ごとに避難者名簿に記入

(対応内容の詳細については、本編P. 6 避難所における基本的事項を参照)

【各活動班における業務のチェックリスト】

総務班の仕事		被災者管理班の仕事	
<input type="checkbox"/> 1. 運営本部会議の事務局 (P.23)	<input type="checkbox"/> 1. 避難者名簿の管理 (P.26)	<input type="checkbox"/> 2. 問い合わせへの対応 (P.29)	<input type="checkbox"/> 3. 郵便物・宅配便の取り次ぎ (P.30)
<input type="checkbox"/> 2. 避難所運営情報の記録 (P.23)	<input type="checkbox"/> 3. 郵便物・宅配便の取り次ぎ (P.30)		
<input type="checkbox"/> 3. 生活ルールの作成 (P.24)			
<input type="checkbox"/> 4. 地域との連携 (P.24)			
情報班の仕事		食料・物資班の仕事	
<input type="checkbox"/> 1. 避難所内外情報収集 (P.31)	<input type="checkbox"/> 1. 食料・物資の調達、受入、管理、配給 (P.37)	<input type="checkbox"/> 2. 炊き出し (P.41)	
<input type="checkbox"/> 2. 避難所外向け情報発信 (P.33)			
<input type="checkbox"/> 3. 避難所内向け情報発信 (P.34)			
<input type="checkbox"/> 4. 取材への対応 (P.36)			
施設管理班の仕事		保健・衛生班の仕事	
<input type="checkbox"/> 1. 危険箇所への対応 (P.43)	<input type="checkbox"/> 1. 衛生管理 (P.45)	<input type="checkbox"/> 2. ごみ (P.45)	<input type="checkbox"/> 3. 風呂 (P.46)
<input type="checkbox"/> 2. 防火・防犯 (P.43)	<input type="checkbox"/> 2. ごみ (P.45)	<input type="checkbox"/> 3. 風呂 (P.46)	<input type="checkbox"/> 4. トイレ (P.47)
	<input type="checkbox"/> 3. 風呂 (P.46)	<input type="checkbox"/> 4. トイレ (P.47)	<input type="checkbox"/> 5. 清掃 (P.51)
	<input type="checkbox"/> 4. トイレ (P.47)	<input type="checkbox"/> 5. 清掃 (P.51)	<input type="checkbox"/> 6. ペット (P.52)
要配慮者班の仕事		<input type="checkbox"/> 6. ペット (P.52)	<input type="checkbox"/> 7. 医療・救護活動 (P.53)
<input type="checkbox"/> 1. 要配慮者の支援 (P.58)	<input type="checkbox"/> 7. 医療・救護活動 (P.53)	<input type="checkbox"/> 8. 水の管理 (P.56)	
	<input type="checkbox"/> 8. 水の管理 (P.56)		
ボランティア班の仕事			
<input type="checkbox"/> 1. ボランティアの受入・活動調整 (P.60)			

(各班の対応内容の詳細については、本編の該当ページを参照)

資料2 建物被災状況チェックシート

コンクリート造等建築物

(手順)

- 1, 市町村避難所担当職員や施設管理者がいない場合で、早急に施設内への避難が必要な場合、避難者が2人以上で、このチェックシートにより、目視による点検を行います。
- 2, 質問1から順番に点検を行い、質問1～6（外部の状況）までで、B又はCと判断された場合は、建物内に入ることはせず、質問7以降の内部の状況については点検する必要はありません。
- 3, 危険と認められる場所については、貼り紙をするなどして立入禁止とします。
- 4, このチェックシートの質問項目に関わらず、少しでも建物の状況に不安がある場合は、市町村へ連絡し、被災建築物応急危険度判定士による判定を待ちます。

避難所名： _____

点検実施日時： _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分

点検実施者名： _____

次の質問の該当するところに○を付けて下さい。

質 問	該当項目
1 隣接する建物が傾き、避難所の建物に倒れ込む危険性がありますか？	A いいえ B 傾いている感じがする C 倒れ込みそうである
2 建物周辺に地すべり、がけくずれ、地割れ、噴砂・液状化などが生じたか？	A いいえ B 生じた C ひどく生じた
3 建物が沈下しましたか？あるいは、建物周囲の地面が沈下しましたか？	A いいえ B 生じた C ひどく生じた
4 建物が傾斜しましたか？	A いいえ B 傾斜しているような感じがする C 明らかに傾斜した
5 外部の柱や壁にひび割れがありますか？	A ない又は髪の毛程度のひび割れがある B 比較的大きなひび割れが入っている C 大きなひび割れが多数あり、鉄筋が見える
6 外壁タイル・モルタルなどが落下しましたか？	A いいえ B 落下しかけている、落下している (Cの回答はありません)
7 床が壊れましたか？	A いいえ B 少し傾いている、下がっている C 大きく傾斜している、下がっている

8 内部のコンクリートの柱、壁にひび割れがありますか？	A ない又は髪の毛程度のひび割れがある B 比較的大きなひび割れが入っている C 大きなひび割れが多数あり、鉄筋が見える
9 建具やドアが壊れましたか？	A いいえ B 建具・ドアが動かない C 建具・ドアが壊れた
10 天井、照明器具が落下しましたか？	A いいえ B 落下しかけている C 落下した
11 その他、目についた被害を記入して下さい。 (例：塀が傾いた、水・ガスが漏れている、家具が倒れたなど)	

【判断基準】

1, 質問1～10を集計します。

A	B	C

2, 必要な対応をとります。

◎ C の答えが一つでもある場合は、『危険』です。

施設内へは立ち入らず、市町村へ連絡し、他の避難所への移動等、必要な対応を検討します。

◎ B の答えが一つでもある場合は、『要注意』です。

施設内へは立ち入らず、市町村へ連絡し、専門家による応急的な補強を行う等、必要な措置を講じます。

◎ A のみの場合

危険箇所に注意し、施設を使用します。

※ 余震により被害が進んだと思われる場合は、再度チェックシートで被災状況を点検して下さい。

※ 石綿（アスベスト）が使用された施設が破損した場合、石綿が飛散することが想定されます。上記チェックリストにより、施設に破損が認められれば立ち入らないこととしていますが、市町村においては、石綿使用の有無をあらかじめ避難所運営組織に伝えるなど、健康被害に留意してください。

※ このチェックシートによる判断は、あくまで臨時的なものであるため、市町村へ連絡し、できるだけ早く被災建築物応急危険度判定士による判定を受けて下さい。

資料3 避難者名簿

入所年月日		年 月 日		居住グループ		
ふりがな 世帯主氏名	性別		男・女		家屋の 被害状況	居住の可否 (可・否)
	年齢		歳			全壊・半壊・一部損壊
	避難確認					断水・停電・ガス停止・電話不通
職業・資格・特技 ※1		要配慮 区分	所属 自治会			
住所		車		車種	ナンバー	
		ペット		有 (種類) 無		
電話番号		携帯番号				
緊急連絡先 (必ず記入してください)		氏名		電話番号		
		住所				
家族 構成	氏名	続柄	性別	職業・資格・特技等 ※1	要配慮区分	避難確認
要配慮区分 1.要介護 2.視覚障害 3.聴覚障害 4.言語障害 5.肢体不自由 6.内部障害 7.知的障害 8.精神障害 9.発達障害 10.認知症 11.乳幼児 12.妊産婦 13.難病 14.傷病 15.外国人 16.アレルギー 17.その他 ()						
上記により配慮が必要なこと(手話・要約筆記が必要、食物アレルギーの対象食料、服用している薬等)や負傷・疾病の 状況等特に申告する必要があること						
避難者名簿の掲示・公開 ※2				同意する・同意しない		

※1 活動班編制時の参考としますので、過去の職業も含め、できる限り記入をお願いします。

※2 ご記入いただいた情報は、災害対策本部や避難所運営と支援のために最低限必要な範囲で共有します。
また、被災者台帳に利用されます。なお、避難者名簿の掲示・公開に同意されない場合でも、親類縁者の方からの個別の安否確認の問い合わせには応じる場合があります。

※3 配偶者からの暴力、ストーカー行為、児童虐待等の事情により個別の安否確認の問い合わせに応じる
ことに不都合がある方はその旨記載してください。記載欄 ()

※4 自分で記入できない方は、被災者管理班が聞き取りますので、お申し出ください。

退所状況			
退所年月日		年 月 日	
連絡先 退所後	住所		
	電話番号	携帯番号	

	備考	入所継続家族等ありましたら、記入してください。
--	----	-------------------------

避難者名簿（在宅避難者・車中泊避難者用）

発災直後～

調査票

(1) 基礎情報	
記入日時	年 月 日 () 時
記入者の氏名	
記入者の生年月日	年 月 日 年齢： 歳 性別：
自宅住所	
連絡先	固定電話： 携帯電話：
自宅の形態	<input type="checkbox"/> 持ち家 <input type="checkbox"/> 借家・賃貸 <input type="checkbox"/> その他〔 〕
現在の避難生活場所	<input type="checkbox"/> 避難所〔場所： 誰が： 〕 <input type="checkbox"/> 自宅〔誰が： 〕 <input type="checkbox"/> 知人宅〔誰が： 〕 <input type="checkbox"/> 車中泊〔場所： 誰が： 〕 <input type="checkbox"/> その他〔場所： 誰が： 〕
世帯主の氏名	□記入者と同様
世帯主の生年月日	年 月 日 年齢： 歳 性別：
世帯人数	(記入者含む) 名
世帯構成	<input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> 乳児 <input type="checkbox"/> 幼児 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 妊産婦(妊娠週数：) <input type="checkbox"/> 入院中の者 <input type="checkbox"/> 施設入所中の者 <input type="checkbox"/> 障害者 <input type="checkbox"/> 外国人 <input type="checkbox"/> ペット〔種類： 〕 <input type="checkbox"/> その他〔 〕
要配慮者	<input type="checkbox"/> 世帯の中に医療的な支援が必要な方がいる →個別項目【医療関係情報】へ <input type="checkbox"/> 世帯の中に福祉的な支援が必要な方がいる →個別項目【福祉関係情報】へ
避難所以外の避難者等がいる場合、避難所・支援拠点による支援の利用状況、必要とする支援(又は利用予定)	<input type="checkbox"/> 利用している (利用している避難所・支援拠点の場所：) → <input type="checkbox"/> 応急給水 <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 生活物資 <input type="checkbox"/> 入浴 <input type="checkbox"/> 各種支援情報 <input type="checkbox"/> 利用していない <input type="checkbox"/> 利用することが困難 →必要な支援 <input type="checkbox"/> 応急給水 <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 生活物資 <input type="checkbox"/> 入浴 <input type="checkbox"/> 各種支援情報
(2) 被災状況	
ライフライン等の復旧状況	<input type="checkbox"/> 全て復旧している <input type="checkbox"/> 復旧がまだのものがある(復旧していないものをチェック) → <input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> キッチン <input type="checkbox"/> お風呂 <input type="checkbox"/> 給湯器 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 固定電話 <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> インターネット通信 <input type="checkbox"/> 洗濯機 <input type="checkbox"/> 冷蔵庫 <input type="checkbox"/> 電子レンジ <input type="checkbox"/> エアコン <input type="checkbox"/> その他〔 〕
家屋(建物)の被災状況	<input type="checkbox"/> 家屋に極めて大きな被害があった(家が流れてしまった、家が倒壊した、家が)

害状況	<p>土砂によって埋没したなど)</p> <input type="checkbox"/> 家屋に修繕が必要な程度の大きな被害があった (瓦が落ちた、外壁がはがれたなど)
	<input type="checkbox"/> 家屋に被害があった → 被害の概況：[]
	<input type="checkbox"/> 被害はなかった
(3) 現在の健康面・生活環境について	
冷暖房設備	<input type="checkbox"/> 問題ない <input type="checkbox"/> 冷房が使えない <input type="checkbox"/> 暖房が使えない <input type="checkbox"/> 給湯器が使えない <input type="checkbox"/> その他 []
(4) その他	
その他	<p>例：物資が足りない、家屋の再建について相談できていない、行政に説明会を開いてほしいなど、なるべく具体的な声を記入 (被災者が発言したものを記載)</p>
対応者の所感	<p>例：見守りの必要性が高いと感じた場合や特に支援が必要と感じられる事項を記入 (被災者に対面した者が感じたことを記載)</p>

【情報の利用目的】(行政機関用)

避難所供与期間における今後の避難生活での訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を行う目的に利用します。また、訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を実施するに当たり、××市内部での情報共有や日本赤十字等医療関係者、社会福祉協議会等福祉関係者、NPO等民間支援団体、民生委員・児童委員、町内会・自治会長等へ情報提供を行う場合があります。

【情報の利用目的】(民間団体用)

避難所供与期間における今後の避難生活での訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を行う目的に利用します。また、訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を実施するため地方公共団体への情報提供を行います。なお、地方公共団体において、訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を実施するため、××市内部での情報共有や日本赤十字等医療関係者、社会福祉協議会等福祉関係者、他のNPO等民間支援団体、民生委員・児童委員、町内会、自治会長等に、本情報を提供する場合があります。

※1 避難者名簿の掲示・公開に同意されない場合でも、親類縁者の方からの個別の安否確認の問い合わせには応じる場合があります。

※2 配偶者からの暴力、ストーカー行為、児童虐待等の事情により個別の安否確認の問い合わせに応じることに不都合がある方はその旨記載してください。記載欄（ ）

上記【情報の利用目的】のとおり情報を取り扱うことについて

同意する 同意しない

個別項目【医療関係情報】 ※要配慮者が世帯内に複数いる場合は、要配慮者分記入

要配慮者の氏名：	
既往歴・治療中、医療サポートの利用状況	<input type="checkbox"/> 持病がある〔病名： 〕 <input type="checkbox"/> 高血圧 <input type="checkbox"/> 糖尿病 <input type="checkbox"/> 人工呼吸器を利用している <input type="checkbox"/> 在宅酸素 <input type="checkbox"/> 人工透析〔 <input type="checkbox"/> 血液透析 <input type="checkbox"/> 腹膜透析〕 <input type="checkbox"/> インスリン注射 <input type="checkbox"/> 抗凝固薬の定期的投薬 <input type="checkbox"/> 緊急性のある精神疾患 <input type="checkbox"/> 緊急治療歯科疾患 <input type="checkbox"/> 要緊急処置妊婦〔 <input type="checkbox"/> 産科 <input type="checkbox"/> 非産科 合併症： 〕 <input type="checkbox"/> 定期的投薬が必要（現在、〔中断 ・ 継続〕 ） → <input type="checkbox"/> 降圧薬 <input type="checkbox"/> 血糖降下薬 <input type="checkbox"/> 向精神薬 <input type="checkbox"/> その他 → 〔医薬品名： 〕
かかりつけの医療機関名	

個別項目【福祉関係情報】 ※要配慮者が世帯内に複数いる場合は、要配慮者分記入

要配慮者の氏名：	
訪問看護などの医療サービスを利用しているか	<input type="checkbox"/> 有 〔利用している事業所名： 〕 <input type="checkbox"/> 無
要介護（支援）認定を受けているか等	<input type="checkbox"/> 有 → <input type="checkbox"/> 事業対象者 <input type="checkbox"/> 要支援1 <input type="checkbox"/> 要支援2 <input type="checkbox"/> 要介護1 <input type="checkbox"/> 要介護2 <input type="checkbox"/> 要介護3 <input type="checkbox"/> 要介護4 <input type="checkbox"/> 要介護5 <input type="checkbox"/> 介護区分不明 〔利用している居宅介護支援事業所等の名称： 〕 <input type="checkbox"/> 無
障害者手帳を持っているか	<input type="checkbox"/> 有〔 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 <input type="checkbox"/> 精神障害者保健福祉手帳 <input type="checkbox"/> 療育手帳〕

避難生活段階～

調査票

(1) 基礎情報	
記入日時	年 月 日 () 時
記入者の氏名	
記入者の生年月日	年 月 日 年齢： 歳 性別：
自宅住所	
連絡先	固定電話： 携帯電話：
自宅の形態	<input type="checkbox"/> 持ち家 <input type="checkbox"/> 借家・賃貸 <input type="checkbox"/> その他 []
現在の避難生活場所	<input type="checkbox"/> 避難所 [場所： 誰が：] <input type="checkbox"/> 自宅 [誰が：] <input type="checkbox"/> 知人宅 [誰が：] <input type="checkbox"/> 車中泊 [場所： 誰が：] <input type="checkbox"/> その他 [場所： 誰が：]
世帯主の氏名	<input type="checkbox"/> 記入者と同様
世帯主の生年月日	年 月 日 年齢： 歳 性別：
世帯人数	(記入者含む) 名
世帯構成	<input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> 乳児 <input type="checkbox"/> 幼児 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 妊産婦 (妊娠週数：) <input type="checkbox"/> 入院中の者 <input type="checkbox"/> 施設入所中の者 <input type="checkbox"/> 障害者 <input type="checkbox"/> 外国人 <input type="checkbox"/> ペット [種類：] <input type="checkbox"/> その他 []
要配慮者	<input type="checkbox"/> 世帯の中に医療的な支援が必要な方がいる→個別項目【医療関係情報】へ <input type="checkbox"/> 世帯の中に福祉的な支援が必要な方がいる→個別項目【福祉関係情報】へ
避難所以外の避難者等がいる場合、避難所・支援拠点による支援の利用状況、必要とする支援（又は利用予定）	<input type="checkbox"/> 利用している (利用している避難所・支援拠点の場所：) → <input type="checkbox"/> 応急給水 <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 生活物資 <input type="checkbox"/> 入浴 <input type="checkbox"/> 各種支援情報 <input type="checkbox"/> 利用していない <input type="checkbox"/> 利用することが困難 →必要な支援 <input type="checkbox"/> 応急給水 <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 生活物資 <input type="checkbox"/> 入浴 <input type="checkbox"/> 各種支援情報
(2) 被災状況	
ライフライン等の復旧状況	<input type="checkbox"/> 全て復旧している <input type="checkbox"/> 復旧がまだのものがある (復旧していないものをチェック) → <input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> キッチン <input type="checkbox"/> お風呂 <input type="checkbox"/> 給湯器 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 固定電話 <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> インターネット通信 <input type="checkbox"/> 洗濯機 <input type="checkbox"/> 冷蔵庫 <input type="checkbox"/> 電子レンジ <input type="checkbox"/> エアコン <input type="checkbox"/> その他 []
家屋 (建物) の被害状況	<input type="checkbox"/> 家屋に極めて大きな被害があった (家が流れてしまった、家が倒壊した、家が土砂によって埋没したなど) <input type="checkbox"/> 家屋に修繕が必要な程度の大きな被害があった (瓦が落ちた、外壁がはがれたなど) <input type="checkbox"/> 家屋に被害があった

	<p>→ 被害の概況：〔 〕</p> <p><input type="checkbox"/>被害はなかった</p> <p>【水害の場合】</p> <p>浸水被害：<input type="checkbox"/>浸水被害なし <input type="checkbox"/>床上浸水 <input type="checkbox"/>床下浸水</p> <p>土砂被害：<input type="checkbox"/>床上浸水 <input type="checkbox"/>床上の土砂被害</p> <p><input type="checkbox"/>床下の土砂被害</p> <p>〔 ⇒被害がある場合の土砂撤去の状況： 〕</p>
被災後の後片付け	<p><input type="checkbox"/>自分や家族、知人等で片付け・清掃を行い、完了した</p> <p><input type="checkbox"/>災害ボランティアセンターへ依頼した</p> <p>→ 依頼内容：〔 〕</p> <p>現状：<input type="checkbox"/>活動が完了した <input type="checkbox"/>継続中</p> <p><input type="checkbox"/>追加で頼みたい <input type="checkbox"/>まだ来ていない</p> <p><input type="checkbox"/>災害ボランティアセンターへ依頼していない</p> <p>→ 理由：<input type="checkbox"/>頼み方が分からない <input type="checkbox"/>連絡手段がない</p> <p><input type="checkbox"/>何を頼めるのか分からない</p> <p><input type="checkbox"/>災害ボランティアセンターを知らない</p> <p><input type="checkbox"/>ボランティアに入ってほしくない</p> <p><input type="checkbox"/>その他〔 〕</p>
居住スペースの状況	<p><input type="checkbox"/>自宅で生活可能</p> <p><input type="checkbox"/>ライフラインが復旧すれば自宅で生活可能</p> <p><input type="checkbox"/>今後、修繕・リフォームが必要</p> <p><input type="checkbox"/>再建・転居が必要</p>
(3) 現在の健康面・生活環境について	
健康状態の変化	<p>変化があった者の氏名：</p> <p>※該当者が世帯内に複数いる場合は、当該者分記入</p>
健康状態	<p><input type="checkbox"/>疲労がたまっている</p> <p><input type="checkbox"/>日常生活に支障が生じている</p> <p><input type="checkbox"/>その他〔 〕</p>
今ある症状	<p><input type="checkbox"/>痛み（膝、腰、ほか）</p> <p><input type="checkbox"/>けが</p> <p><input type="checkbox"/>風邪等（熱、だるさ、咳等）</p> <p><input type="checkbox"/>その他〔 〕</p>
受診の状況	<p><input type="checkbox"/>受診する必要がない</p> <p><input type="checkbox"/>問題なく受診できている〔病院名： 〕</p> <p><input type="checkbox"/>受診できていない/困難がある</p> <p>→理由：<input type="checkbox"/>病院が開いていない <input type="checkbox"/>移動手段がない</p> <p><input type="checkbox"/>行く時間がない <input type="checkbox"/>行く気が起きない</p> <p><input type="checkbox"/>その他〔 〕</p>
服薬の状況	<p><input type="checkbox"/>薬を服用していない</p> <p><input type="checkbox"/>問題なく服用できている</p> <p><input type="checkbox"/>服用できていない/困難がある</p>

		→理由： <input type="checkbox"/> 受診できていない <input type="checkbox"/> 薬局が開いていない <input type="checkbox"/> 移動手段がない <input type="checkbox"/> 行く時間がない <input type="checkbox"/> 行く気が起きない <input type="checkbox"/> その他〔 〕
生活面の变化		変化があった者の氏名 <p style="text-align: right;">※該当者が世帯内に複数いる場合は、当該者分記入</p>
	精神面	<input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 気持ちが落ち込む <input type="checkbox"/> 不安感が強い <input type="checkbox"/> 気分が高揚している <input type="checkbox"/> その他〔 〕 →相談相手の有無 <input type="checkbox"/> 有〔相談先： 〕 <input type="checkbox"/> 無
	睡眠	<input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 眠れない <input type="checkbox"/> 何度も目が覚める <input type="checkbox"/> 常に眠い <input type="checkbox"/> その他〔 〕
	食欲・食事等	<input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 増えた <input type="checkbox"/> 減った
食物への配慮	食物アレルギー	<input type="checkbox"/> 有〔誰が： 原因食物： 〕 <input type="checkbox"/> 無
	摂食嚥下困難	<input type="checkbox"/> 有〔誰が： 食形態： 〕 <input type="checkbox"/> 無
	疾病等による食事制限	<input type="checkbox"/> 有〔誰が： 制限が必要な食品・栄養素： 〕 <input type="checkbox"/> 無
食事内容	<input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 変化した 現在の内容 <input type="checkbox"/> 自炊している <input type="checkbox"/> インスタント食品が中心 <input type="checkbox"/> スーパー等のお惣菜が中心 <input type="checkbox"/> 外食が多い <input type="checkbox"/> その他〔 〕	
調理・食事環境	<input type="checkbox"/> 問題ない <input type="checkbox"/> 台所が使えない <input type="checkbox"/> カセットコンロを使用している <input type="checkbox"/> 食事を準備できる環境がない（食器が洗えない等） <input type="checkbox"/> 食事を準備する時間がない <input type="checkbox"/> 食事を準備する体力がない <input type="checkbox"/> やる気が起きない	

	<input type="checkbox"/> その他〔 〕
冷暖房設備	<input type="checkbox"/> 問題ない <input type="checkbox"/> 冷房が使えない <input type="checkbox"/> 暖房が使えない <input type="checkbox"/> 給湯器が使えない <input type="checkbox"/> その他〔 〕
車の被災の有無	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
移動の困難	<input type="checkbox"/> 困難なし <input type="checkbox"/> 困難あり →困難な理由 <input type="checkbox"/> 外出に手助けが必要 <input type="checkbox"/> 移動手段がない <input type="checkbox"/> 費用がかかる <input type="checkbox"/> その他〔 〕
車・移動手段	<input type="checkbox"/> 自家用車 <input type="checkbox"/> 親戚等の送迎 <input type="checkbox"/> 車両は元々保持していない <input type="checkbox"/> その他主な移動手段〔 〕
買い物	<input type="checkbox"/> 困難なし <input type="checkbox"/> 困難あり →困難な理由 <input type="checkbox"/> 商店等が遠い <input type="checkbox"/> 買い物機会が少ない（移動販売車の頻度、場所等） <input type="checkbox"/> 商品が少ない・足りない <input type="checkbox"/> その他〔 〕
生活費	<input type="checkbox"/> 就労している <input type="checkbox"/> 求職している <input type="checkbox"/> 年金 <input type="checkbox"/> 生活保護等の行政支援 <input type="checkbox"/> 仕送り等 <input type="checkbox"/> 預貯金 <input type="checkbox"/> その他
通勤	<input type="checkbox"/> 困難なし <input type="checkbox"/> 困難あり〔具体内容： 〕
（４）今後の生活再建について	
今後の住まい予定	<input type="checkbox"/> 自宅に居住 → <input type="checkbox"/> 現状のまま <input type="checkbox"/> 修繕・リフォームを検討 <input type="checkbox"/> 建て替え <input type="checkbox"/> その他〔 〕 <input type="checkbox"/> 転居を検討 → <input type="checkbox"/> 公営住宅に申し込む <input type="checkbox"/> 借家 <input type="checkbox"/> 親戚・知人宅 <input type="checkbox"/> 仮設住宅 <input type="checkbox"/> その他〔 〕 <input type="checkbox"/> 分からない →居住地の希望 → <input type="checkbox"/> 災害前と同じ地区 <input type="checkbox"/> 同じ町内で別の地区

	<input type="checkbox"/> 町外に出たい（出る予定） <input type="checkbox"/> 考えられない <input type="checkbox"/> その他〔 〕 <input type="checkbox"/> 今後の住まいについて考えられない（悩んでいる）
上記を進めるに当たっての課題等	<input type="checkbox"/> 課題はない（実施可能） <input type="checkbox"/> 課題がある → <input type="checkbox"/> 資金調達 <input type="checkbox"/> 住宅として使えるかわからない <input type="checkbox"/> 家族間の合意 <input type="checkbox"/> その他〔 〕
(5) その他	
その他（困っていること、伝えたいこと）	<p style="text-align: center;"><i>例：物資が足りない、家屋の再建について相談できていない、行政に説明会を開いてほしいなど、なるべく具体的な声を記入（被災者が発言したものを記載）</i></p>
対応者の所感	<p style="text-align: center;"><i>例：見守りの必要性が高いと感じた場合や特に支援が必要と感じられる事項を記入（被災者に対面した者が感じたことを記載）</i></p>

【情報の利用目的】（行政機関用）

避難所供与期間における今後の避難生活での訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を行う目的に利用します。また、訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を実施するに当たり、××市内部での情報共有や日本赤十字等医療関係者、社会福祉協議会等福祉関係者、NPO等民間支援団体、民生委員・児童委員、町内会・自治会長等へ情報提供を行う場合があります。

【情報の利用目的】（民間団体用）

避難所供与期間における今後の避難生活での訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を行う目的に利用します。また、訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を実施するため地方公共団体への情報提供を行います。なお、地方公共団体において、訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を実施するため、××市内部での情報共有や日本赤十字等医療関係者、社会福祉協議会等福祉関係者、他のNPO等民間支援団体、民生委員・児童委員、町内会、自治会長等に、本情報を提供する場合があります。

※1 避難者名簿の掲示・公開に同意されない場合でも、親類縁者の方からの個別の安否確認の問い合わせには応じる場合があります。

※2 配偶者からの暴力、ストーカー行為、児童虐待等の事情により個別の安否確認の問い合わせに応じる

	<p>デイサービス・ヘルパーなどの福祉サービスを利用しているか</p>	<p><input type="checkbox"/>有〔利用している事業所名： 〕 →<input type="checkbox"/>被災前と変わらず利用の見通しが立っている <input type="checkbox"/>利用の見通しが立たない <input type="checkbox"/>わからない <input type="checkbox"/>無</p>
	<p>日常生活の介助が必要か</p>	<p><input type="checkbox"/>介助は必要ない <input type="checkbox"/>一部介助が必要 →<input type="checkbox"/>食事 <input type="checkbox"/>衣類の着脱 <input type="checkbox"/>排泄 <input type="checkbox"/>移動 <input type="checkbox"/>意思疎通 <input type="checkbox"/>判断 <input type="checkbox"/>全介助が必要 →<input type="checkbox"/>食事 <input type="checkbox"/>衣類の着脱 <input type="checkbox"/>排泄 <input type="checkbox"/>移動 <input type="checkbox"/>意思疎通 <input type="checkbox"/>判断</p>

仮設住宅への移行検討段階～

調査票

(1) 基礎情報	
記入日時	年 月 日 () 時
記入者の氏名	
記入者の生年月日	年 月 日 年齢： 歳 性別：
自宅住所	
連絡先	固定電話： 携帯電話：
自宅の形態	<input type="checkbox"/> 持ち家 <input type="checkbox"/> 借家・賃貸 <input type="checkbox"/> その他〔 〕
現在の避難生活場所	<input type="checkbox"/> 避難所〔場所： 誰が： 〕 <input type="checkbox"/> 自宅〔誰が： 〕 <input type="checkbox"/> 知人宅〔誰が： 〕 <input type="checkbox"/> 車中泊〔場所： 誰が： 〕 <input type="checkbox"/> その他〔場所： 誰が： 〕
世帯主の氏名	<input type="checkbox"/> 記入者と同様
世帯主の生年月日	年 月 日 年齢： 歳 性別：
世帯人数	(記入者含む) 名
世帯構成	<input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> 乳児 <input type="checkbox"/> 幼児 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 妊産婦(妊娠週数：) <input type="checkbox"/> 入院中の者 <input type="checkbox"/> 施設入所中の者 <input type="checkbox"/> 障害者 <input type="checkbox"/> 外国人 <input type="checkbox"/> ペット〔種類： 〕 <input type="checkbox"/> その他〔 〕
要配慮者	<input type="checkbox"/> 世帯の中に医療的な支援が必要な方がいる→個別項目【医療関係情報】へ <input type="checkbox"/> 世帯の中に福祉的な支援が必要な方がいる→個別項目【福祉関係情報】へ
避難所以外の避難者等がある場合、避難所・支援拠点による支援の利用状況、必要とする支援(又は利用予定)	<input type="checkbox"/> 利用している (利用している避難所・支援拠点の場所：) → <input type="checkbox"/> 応急給水 <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 生活物資 <input type="checkbox"/> 入浴 <input type="checkbox"/> 各種支援情報 <input type="checkbox"/> 利用していない <input type="checkbox"/> 利用することが困難 →必要な支援 <input type="checkbox"/> 応急給水 <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 生活物資 <input type="checkbox"/> 入浴 <input type="checkbox"/> 各種支援情報
(2) 被災状況	
ライフライン等の復旧状況	<input type="checkbox"/> 全て復旧している <input type="checkbox"/> 復旧がまだのものがある(復旧していないものをチェック) → <input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> キッチン <input type="checkbox"/> お風呂 <input type="checkbox"/> 給湯器 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 固定電話 <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> インターネット通信 <input type="checkbox"/> 洗濯機 <input type="checkbox"/> 冷蔵庫 <input type="checkbox"/> 電子レンジ <input type="checkbox"/> エアコン <input type="checkbox"/> その他〔 〕
家屋(建物)の被害状況	【水害の場合】 浸水被害： <input type="checkbox"/> 浸水被害なし <input type="checkbox"/> 床上浸水 <input type="checkbox"/> 床下浸水 土砂被害： <input type="checkbox"/> 床上浸水 <input type="checkbox"/> 床上の土砂被害 <input type="checkbox"/> 床下の土砂被害

	<p style="text-align: center;">⇒被害がある場合の土砂撤去の状況：</p>
被災後の後片付け	<input type="checkbox"/> 自分や家族、知人等で片付け・清掃を行い、完了した <input type="checkbox"/> 災害ボランティアセンターへ依頼した → 依頼内容：〔 〕 現状： <input type="checkbox"/> 活動が完了した <input type="checkbox"/> 継続中 <input type="checkbox"/> 追加で頼みたい <input type="checkbox"/> まだ来ていない <input type="checkbox"/> 災害ボランティアセンターへ依頼していない → 理由： <input type="checkbox"/> 頼み方が分からない <input type="checkbox"/> 連絡手段がない <input type="checkbox"/> 何を頼めるのか分からない <input type="checkbox"/> 災害ボランティアセンターを知らない <input type="checkbox"/> ボランティアに入ってほしくない <input type="checkbox"/> その他〔 〕
(3) 現在の健康面・生活環境について	
健康状態の変化	変化があった者の氏名： <p>※該当者が世帯内に複数いる場合は、当該者分記入</p>
健康状態	<input type="checkbox"/> 疲労がたまっている <input type="checkbox"/> 日常生活に支障が生じている <input type="checkbox"/> その他〔 〕
今ある症状	<input type="checkbox"/> 痛み（膝、腰、ほか） <input type="checkbox"/> けが <input type="checkbox"/> 風邪等（熱、だるさ、咳等） <input type="checkbox"/> その他〔 〕
受診の状況	<input type="checkbox"/> 受診する必要がない <input type="checkbox"/> 問題なく受診できている〔病院名： 〕 <input type="checkbox"/> 受診できていない/困難がある →理由： <input type="checkbox"/> 病院が開いていない <input type="checkbox"/> 移動手段がない <input type="checkbox"/> 行く時間がない <input type="checkbox"/> 行く気が起きない <input type="checkbox"/> その他〔 〕
服薬の状況	<input type="checkbox"/> 薬を服用していない <input type="checkbox"/> 問題なく服用できている <input type="checkbox"/> 服用できていない/困難がある →理由： <input type="checkbox"/> 受診できていない <input type="checkbox"/> 薬局が開いていない <input type="checkbox"/> 移動手段がない <input type="checkbox"/> 行く時間がない <input type="checkbox"/> 行く気が起きない <input type="checkbox"/> その他〔 〕
生活面の変化	変化があった者の氏名 <p>※該当者が世帯内に複数いる場合は、当該者分記入</p>

	<input type="checkbox"/> 未申請〔申請していない理由〕
義援金	<input type="checkbox"/> 申請済み <input type="checkbox"/> 未申請〔申請していない理由〕
その他支援金	<input type="checkbox"/> 申請済み (<input type="checkbox"/> 生活再建支援金 <input type="checkbox"/> 災害弔慰金 <input type="checkbox"/> 災害見舞金) <input type="checkbox"/> 未申請〔申請していない理由〕
支援情報	<input type="checkbox"/> 十分に情報を入手出来ていると感じる <input type="checkbox"/> 一定程度の情報は入手できていると感じる <input type="checkbox"/> 情報が入手出来ていないと感じる
(5) その他	
その他（困っていること、伝えたいこと）	<i>例：物資が足りない、家屋の再建について相談できていない、行政に説明会を開いてほしいなど、なるべく具体的な声を記入（被災者が発言したものを記載）</i>
対応者の所感	<i>例：見守りの必要性が高いと感じた場合や特に支援が必要と感じられる事項を記入（被災者に対面した者が感じたことを記載）</i>

【情報の利用目的】（行政機関用）

避難所供与期間における今後の避難生活での訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を行う目的に利用します。また、訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を実施するに当たり、××市内部での情報共有や日本赤十字等医療関係者、社会福祉協議会等福祉関係者、NPO等民間支援団体、民生委員・児童委員、町内会・自治会長等へ情報提供を行う場合があります。

【情報の利用目的】（民間団体用）

避難所供与期間における今後の避難生活での訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を行う目的に利用します。また、訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を実施するため地方公共団体への情報提供を行います。なお、地方公共団体において、訪問・見守り、支援物資の提供、支援情報の提供、災害ボランティアの紹介等の支援を実施するため、××市内部での情報共有や日本赤十字等医療関係者、社会福祉協議会等福祉関係者、他のNPO等民間支援団体、民生委員・児童委員、町内会、自治会長等に、本情報を提供する場合があります。

- ※1 避難者名簿の掲示・公開に同意されない場合でも、親類縁者の方からの個別の安否確認の問い合わせには応じる場合があります。
- ※2 配偶者からの暴力、ストーカー行為、児童虐待等の事情により個別の安否確認の問い合わせに応じることに不都合がある方はその旨記載してください。記載欄（ ）

上記【情報の利用目的】のとおり情報を取り扱うことについて

- 同意する 同意しない

個別項目【医療関係情報】 ※要配慮者が世帯内に複数いる場合は、要配慮者分記入

要配慮者の氏名：

既往歴・治療中、医療サポートの利用状況	<input type="checkbox"/> 持病がある〔病名： 〕 <input type="checkbox"/> 高血圧 <input type="checkbox"/> 糖尿病 <input type="checkbox"/> 人工呼吸器を利用している <input type="checkbox"/> 在宅酸素 <input type="checkbox"/> 人工透析〔 <input type="checkbox"/> 血液透析 <input type="checkbox"/> 腹膜透析〕 <input type="checkbox"/> インスリン注射 <input type="checkbox"/> 抗凝固薬の定期的投薬 <input type="checkbox"/> 緊急性のある精神疾患 <input type="checkbox"/> 緊急治療歯科疾患 <input type="checkbox"/> 要緊急処置妊婦〔 <input type="checkbox"/> 産科 <input type="checkbox"/> 非産科 合併症： 〕 <input type="checkbox"/> 定期的投薬が必要（現在、〔中断 ・ 継続〕 ） → <input type="checkbox"/> 降圧薬 <input type="checkbox"/> 血糖降下薬 <input type="checkbox"/> 向精神薬 <input type="checkbox"/> その他 → 〔医薬品名： 〕
かかりつけの医療機関名	

個別項目【福祉関係情報】 ※要配慮者が世帯内に複数いる場合は、要配慮者分記入

要配慮者の氏名：

訪問看護などの医療サービスを利用しているか	<input type="checkbox"/> 有 〔利用している事業所名： 〕 <input type="checkbox"/> 無
要介護（支援）認定を受けているか等	<input type="checkbox"/> 有 → <input type="checkbox"/> 事業対象者 <input type="checkbox"/> 要支援1 <input type="checkbox"/> 要支援2 <input type="checkbox"/> 要介護1 <input type="checkbox"/> 要介護2 <input type="checkbox"/> 要介護3 <input type="checkbox"/> 要介護4 <input type="checkbox"/> 要介護5 <input type="checkbox"/> 介護区分不明 〔利用している居宅介護支援事業所等の名称： 〕 <input type="checkbox"/> 無
障害者手帳を持っている	<input type="checkbox"/> 有〔 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 <input type="checkbox"/> 精神障害者保健福祉手帳

か	<input type="checkbox"/> 療育手帳 〔具体的な障害の種類等： <input type="checkbox"/> 身体障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 精神障害 <input type="checkbox"/> 発達障害〕 <input type="checkbox"/> 無
デイサービス・ヘルパーなどの福祉サービスを利用しているか	<input type="checkbox"/> 有 〔利用している事業所名： _____ 〕 → <input type="checkbox"/> 被災前と変わらず利用の見通しが立っている <input type="checkbox"/> 利用の見通しが立たない <input type="checkbox"/> わからない <input type="checkbox"/> 無
日常生活の介助が必要か	<input type="checkbox"/> 介助は必要ない <input type="checkbox"/> 一部介助が必要 → <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> 衣類の着脱 <input type="checkbox"/> 排泄 <input type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 意思疎通 <input type="checkbox"/> 判断 <input type="checkbox"/> 全介助が必要 → <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> 衣類の着脱 <input type="checkbox"/> 排泄 <input type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 意思疎通 <input type="checkbox"/> 判断

被災者台帳情報外部提供同意

フリガナ			
氏名			
生年月日		性別	男 ・ 女
住所又は居所			
連絡先（市町村または外部提供先からの問い合わせが可能な連絡先をご記入ください）			
電話番号		F A X 番号	
携帯電話番号		メールアドレス	
<p>あなたの台帳情報の外部提供について、以下の①～③のいずれかをお選びください。</p> <p>（全ての提供先、情報の範囲に同意）</p> <p><input type="checkbox"/> ① 提供先、提供する情報の範囲を問わず、申請者から台帳情報の提供申請があった場合に、台帳情報を提供することに同意します。</p> <p>（任意の提供先、情報の範囲に同意）</p> <p><input type="checkbox"/> ② 下記にチェックした提供先、提供する情報の範囲において、申請者から台帳情報の提供申請があった場合に、台帳情報を提供することに同意します。</p> <p> 下記の i ～ iv において、台帳情報の提供に同意する提供先、提供を同意する情報の範囲をチェック又は記載してください。</p>			
外部提供先及び提供可能情報	<p>i 公共料金等減免</p> <p><input type="checkbox"/> 電力会社（〇〇電力）</p> <p><input type="checkbox"/> ガス会社（〇〇ガス）</p> <p><input type="checkbox"/> 水道料金（〇〇一部事務組合、〇〇事業団）</p> <p><input type="checkbox"/> 下水道料金（〇〇一部事務組合、〇〇事業団）</p> <p><input type="checkbox"/> N H K</p> <p><input type="checkbox"/> N T T</p> <p><input type="checkbox"/> 携帯電話会社（会社名・支店名 _____）</p> <p>連絡先（市町村において把握している場合は不要）： 住所：〒 _____ 電話番号： _____</p>		

メールアドレス： _____

担当者： _____

(次ページに続きます)

その他 (_____)

連絡先 (市町村において把握している場合は不要) :

住所：〒 _____

電話番号： _____

メールアドレス： _____

担当者： _____

※ 同意された提供先に対し、被災者台帳に記載・記録された情報のうち、
料金減免に必要な情報を提供します。

※ 市町村が行う減免 (地方税、保育料等) については、本様式による同意は
不要です。

ii 被災者支援団体等への提供

民生委員

社会福祉協議会

消防団

その他 (民間事業者、NPO、ボランティア団体、障害者団体等)

団体等名称： _____

団体等連絡先 (市町村において把握している場合は不要) :

住所：〒 _____

電話番号： _____

メールアドレス： _____

担当者： _____

提供を同意する情報 (_____)

※別紙から番号を記入ください

提供先団体が希望する (申請する) 情報はすべて提供しても良い

iii 被災者支援に関する各種制度を有する団体への提供

社会福祉協議会 (再掲)

国 (官署名： _____)

被災者生活再建支援法人

独立行政法人住宅金融支援機構

その他

団体等名称： _____

団体等連絡先 (市町村において把握している場合は不要) :

住所：〒 _____

電話番号： _____

メールアドレス： _____

担当者： _____

提供を同意する情報（ _____ ）

※別紙から番号を記入ください

提供先団体が希望する（申請する）情報はすべて提供しても良い

iv その他

提供先として同意する団体名： _____

提供を同意する理由： _____

団体等連絡先（市町村において把握している場合は不要）：

住所：〒 _____

電話番号： _____

メールアドレス： _____

担当者： _____

提供を同意する情報（ _____ ）

※別紙から番号を記入ください

提供先団体が希望する（申請する）情報はすべて提供しても良い

③ 台帳情報を提供することに同意しません。

※ 同意いただいた内容について、同意された外部提供先から災害対策基本法施行規則第8条の6の規定に基づく申請があった場合、同意及び申請の範囲内で被災者台帳に記載・記録された情報を提供いたします。

避難所生活のルール

- 1 この避難所は地域の防災拠点です。
- 2 この避難所の運営に必要な事項を協議するため、市町村担当者、施設管理者、自主防災組織の役員等からなる避難所運営本部を組織します。
 - 避難所運営本部会議を、毎日午前___時と午後___時に開催します。
 - 避難所運営本部に、総務班、被災者管理班、情報班、食料・物資班、施設管理班、保健・衛生班、要配慮者班、ボランティア班の各活動班を設置します。
- 3 避難所は、電気、水道などのライフラインが復旧し、仮設住宅等が整備された段階で閉鎖されます。（状況により、規模の縮小や統合もあります。）
- 4 避難者は、世帯単位で避難者名簿に記入して下さい。
 - 避難所を退所するときは、被災者管理班に転出先を連絡して下さい。
 - 身体障害者補助犬を除きペットを居室に入れることは原則禁止です。
- 5 職員室、保健室、調理室などは避難所運営に必要となるため使用禁止です。
 - 「立入禁止」、「使用禁止」、「利用上の注意」等の指示には必ず従って下さい。
 - 避難所では、利用する部屋を移動していただくことがあります。
- 6 食料・物資は必ず全員に行き届くとは限りません。
 - 食料・物資が不足する場合は、避難所運営本部で配布基準を決定します。
 - 食料・物資は在宅避難者や車中泊者にも配布します。
 - ミルク・おむつなどは必要な方に配布します。
- 7 消灯は、夜___時です。
 - 廊下は点灯したままとし、居室は消灯します。
 - 避難所の運営・管理に必要な部屋は、点灯したままとします。
- 8 携帯電話での通話については所定の場所でのみ可能とします。
 - 居室ではマナーモードに設定し、通話は禁止とします。
- 9 衛生管理のため、避難所内を清潔に保ちます。
 - 居室空間は各世帯で清掃を行い、ごみは各世帯の責任で分別して捨てます。
 - 共有空間については、避難者全員が協力して清掃を行います。
 - ___及び___は土足禁止です。靴は___で脱ぎ、各自管理します。
- 10 飲酒・喫煙は、所定の場所以外では禁止します。なお、炎を露出させる裸火の使用は禁止します。

事務引継書

引継日	年 月 日	
避難所名		
担当者	前任者	後任者
業務内容		
業務における注意点		
避難者からの 要望事項等		
対応状況		
情報共有事項		
その他		

資料6 避難所運営記録簿

年 月 日 () 天気			記入者
避難者数	新規入所者数	退所者数	ペット
世帯()人	世帯()人	世帯()人	犬 匹、猫 匹 他() 匹
避難所運営本部会議内容			
	連絡事項		
総務班			
被災者管理班			
情報班			
食料・物資班			
施設管理班			
保健・衛生班 (ペット関連事項を含む)			
要配慮者班			
ボランティア班			
【会議での検討事項】			
【行政からの伝達事項】			
【避難所内の主な出来事】			

資料7 外泊届用紙

氏名			居住グループ グループ
外泊先	(住所)	(電話番号)	
外泊期間	年 月 日 ~ 年 月 日		
同行者			計 名
緊急連絡先	(電話番号)		

○ 外泊時は必ずこの用紙に記入し、居住グループのグループリーダーに渡してください。

避難所状況報告書（第 報）

〇〇市町村災害対策本部：TEL（ ） FAX（ ）

避難所名							
送信者			受信者名				
報告日時	年 月 日		避難所FAX・TEL				
現在の避難者数	世帯数	世帯・人数	人（うち要配慮者 人）				
	【ペット】犬	匹、猫	匹、その他（ ） 匹				
運営状況	避難所運営本部	編成済み・未編成		周辺状況	避難所の安全確認	未実施・安全・要注意・危険	
	活動班	編成済み・未編成			ライフライン	断水・停電・ガス停止	
	居住グループ	編成済み・未編成				電話不通	
避難所運営本部 会長名・連絡先							
		対応状況			要望等		
連絡事項	総務班						
	被災者管理班						
	情報班						
	食料・物資班						
	施設管理班						
	保健・衛生班 (ペット関連事項を含む)						
	要配慮者班						
	ボランティア班						
緊急を要する事項(具体的に箇条書き)							
対処すべき事項(具体的に箇条書き)							

避難所を開設した際には、市町村災害対策本部へこの様式により報告します。

(第1報においては分かるものだけで報告してもかまいません。)

資料 10 食料・物資依頼伝票

避難所用	発信日時		年 月 日 () 時 分		⇒	受信日時		年 月 日 () 時 分		
	避難所名					担当者名				
	住所					発注業者				
	TEL					運送業者				
	FAX					出荷可能 数量		個口 数量	備考 (サイズ等)	
	担当者名					市町村災害対策本部用				
	No.	依頼項目	数量	備考 (サイズ等)						
	①									
	②									
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
	⑦									
⑧										
⑨										
⑩										

- 一行につき一品、サイズごとに記入し、数量はキリのいい数字で注文してください。
- 備考欄には、サイズ等の規格を記入してください。
- 食料・物資班の担当者は必ず控えを残しておいてください。

資料 1 2 取材者用受付用紙

受付日時		退所日時	
年 月 日 時 分		年 月 日 時 分	
代表者	氏名		
	所属		
	連絡先（住所・電話番号）		
同行者	氏 名	所 属	
取材目的	※オンエア、記事掲載などの予定日： 年 月 日		
避難所側付添者			
特記事項			
〈名刺貼付場所〉			

市町村及び避難所運営者のための ペット同行避難所運営マニュアル



目 次

基本的な考え方	1
なぜペット同行避難が必要なのか	2
自助、共助、公助	3
平常時の準備		
1 ペット受入れの検討	4
2 ペット飼育スペースの選定	5
3 飼育管理の基本ルールの作成	9
4 飼い主への周知及び普及啓発	11
5 ペット同行避難訓練	12
災害時の対応		
ペットの入所受付	13
飼育スペースが決まっていない 場合の対応	14
車中やテントの避難者への注意点	15
【資料編】		
①避難所でのペット飼育管理ルール		
②避難動物一覧表		
③ネームプレート		
④ペットの飼育共同作業表		
⑤飼い主への啓発リーフレット		

基本的な考え方

災害発生時には、ペットを飼育していることで飼い主の安全確保が損なわれることがないように、必要に応じて飼い主がペットを連れて安全な場所に避難できる環境の整備が必要です。

県地域防災計画では「避難計画」の中で「市町村は、家庭動物と同行避難した被災者について、被災者支援等の観点から適切に受け入れるとともに、避難所等における家庭動物の受入れ状況を含む避難状況等の把握に努める。」と記載があるものの、避難所におけるペットの受入れ体制が十分に整っているとはいえない状況です。

一方で、避難所では動物が苦手な方やアレルギー疾患の方など多様な避難者が共同生活を送るため、避難所運営者はペットの受入れや飼育に一定の配慮が必要になります。

本マニュアルは、避難所でのペットをめぐるトラブルを防ぐため、避難所運営者がペットを受け入れる体制を整える際に検討すべき事項や、受け入れたペットの飼育管理が適切に行われるために決めておくべきルールを示しています。



同行避難

災害の発生時に飼い主が飼っているペットを連れて安全な場所へ避難することをいいます。

同伴避難

被災者が避難所でペットを飼育管理することをいいます。指定避難所等で飼い主がペットを同室で飼育することを意味するものではなく、ペットの飼育環境は避難所の状況によって異なります。

ペット

家庭動物のうち、犬や猫などの小型哺乳類と鳥類を指しており、人に危害を加える恐れのある特定動物や、特定外来生物に指定された動物、これらに類する動物は含みません。

身体障害者 補助犬

身体障害者が同伴する補助犬（盲導犬、介助犬及び聴導犬）で、身体障害者補助犬法に基づき訓練・認定された犬をいい、ペットとは異なります。災害時に身体障害者が避難所へ避難した場合には、身体障害者補助犬を拒んではならないことが法律で定められています。

なぜ、ペット同行避難が必要なのか？

ペット同行避難とは『災害の発生時に飼い主が飼っているペットを連れて安全な場所へ避難すること』をいいます。

過去の災害では、避難所にペットを連れて行けないという理由で飼い主が避難せず、被災によりペットと一緒に亡くなられた方もいました。そのような悲しい事態とならないよう、まずは身近な避難所でペットを受け入れることで、飼い主がペットを連れて躊躇なく避難できる体制をつくり、ペットを飼っている「人の安全を確保する」ことがペット同行避難の目的です。

近年ではペットも家族の一員となり、多くの飼い主は災害時にペットを連れて避難したいと考えていますが、過去には避難所でのペット受入れ体制が整っていなかったことから、次のような事例がありました。

- ペットを連れて同行避難できなかったため、飼い主自身も避難をせず自宅に残り、救助が困難となってしまった。
- ペットを連れて同行避難できるかわからず、ペットを自宅において飼い主だけがひとまず避難し、その後、ペットを迎えに行ったところで被災してしまった。
- 避難所でペットを飼育することができず、長期間、車中で生活をしたためエコノミークラス症候群を発症し、命を落としてしまった。
- 飼い主が放したペットが野生化し、大量に繁殖したことにより人にけがをさせるなど、災害復旧の支障となった。

このようなトラブルを防ぐため、災害時も飼い主がペットを連れて同行避難し、飼い主自らがペットを管理できるしくみ、つまり、同行避難の受入れ体制を整えておくことが必要です。



ペット同行避難の体制整備をおこなう目的はペットを飼っている「人の安全を確保すること」

自助、共助、公助

環境省の「人とペットの災害対策ガイドライン」では、自助、共助、公助について以下のとおり記載されています。

自助

「自分の命は自分で守る」という防災の基本。特に発災直後の行動は、自身の安全を守るために避難すべきか、そのまま留まるべきかの判断に始まり、自己が所有し管理するペットの安全確保や飼育も自助が基本となる。通常、災害時の対応は自助が7割とも、8割とも言われる。



避難所の確認や情報収集
一時預け先の確保



マイクロチップ装着など
所有者明示



餌やトイレ用品、キャリー
ケースなどの備蓄

共助

企業、地域の集まりなどのコミュニティのメンバーが共に助け合うこと。自助による個人の安全確保が前提条件となる。

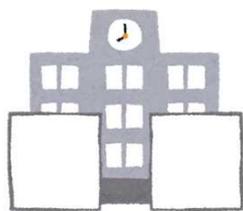


防災訓練等を通じた飼い主同士の交流

避難所でのペット受入れと自主的な飼育管理

公助

行政機関による支援活動であり、初動が遅れる傾向にあるので、「公助」が開始されるまでには、実質的に「自助」や「共助」が災害対応上の主体となる。なお、「公助」が開始された後も「自助」が原則となる。



避難所でのペット受入れ体制の整備
同行避難訓練の実施
ペット同行避難の周知

このように、ペットの災害対策は「自助」が基本となりますが、本マニュアルでは「公助」として、避難所のペットの受入れ体制の整備について、「共助」として、飼い主同士が協力してペットの飼育管理を行うためのルールなどを示しています。

平常時の準備

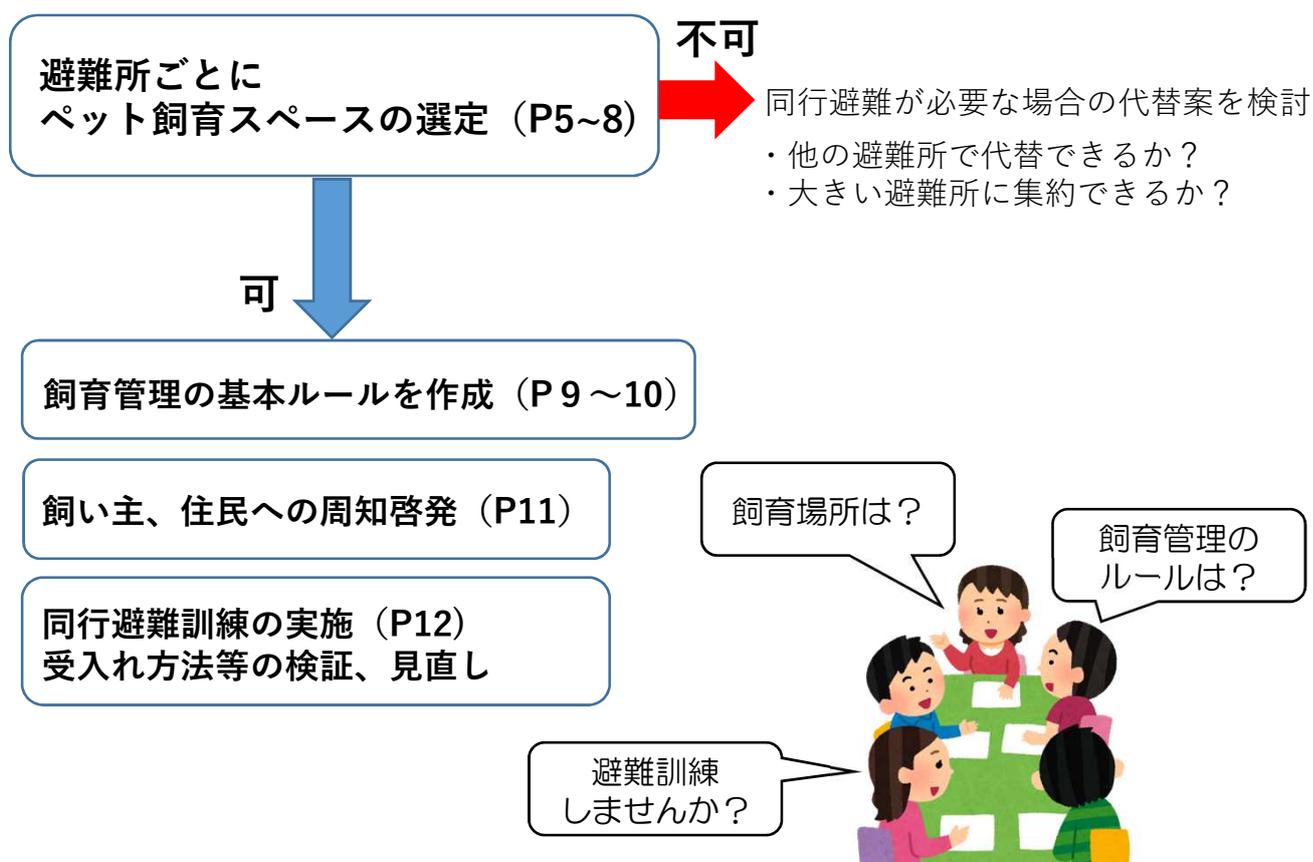
1 ペット受入れの検討

避難所の準備を進める中で、ペットへの対応はどうしても後回しになりがちです。

過去の災害では一旦避難した飼い主が自宅に置いたペットを迎えに戻ったことで災害に巻き込まれた事例もありました。全ての住民の安全を確保するためには、ペットを連れた飼い主が避難してくることを想定しておく必要があります。

ぜひ、避難所ごとにペットの受入れ可否を検討し、「どこに飼育スペースを確保できるか」を検討してください。

ペット受入れの検討作業イメージ



様々な形態の避難所がある中で、一律の対応は難しいと考えられます。まずは、自治体と避難所の運営者等が、ペットの同行避難について共通認識を持つことが準備の第1歩となります。

2 ペット飼育スペースの選定

次に、避難所のどの部分を動物の飼育場所として利用するか、あらかじめ選定しておきましょう。この際、可能な限り水害や津波（浸水）を想定して選定しておく必要があります。

過去の災害で、避難所でのペット飼育に関する苦情が寄せられたのは、鳴き声とニオイです。

一般の避難者のスペースと距離を取ったうえで、人と動物の動線（動き）を分けて接点を最小限にすることでトラブルの発生を予防できます。

ペット飼育スペース選定のポイント

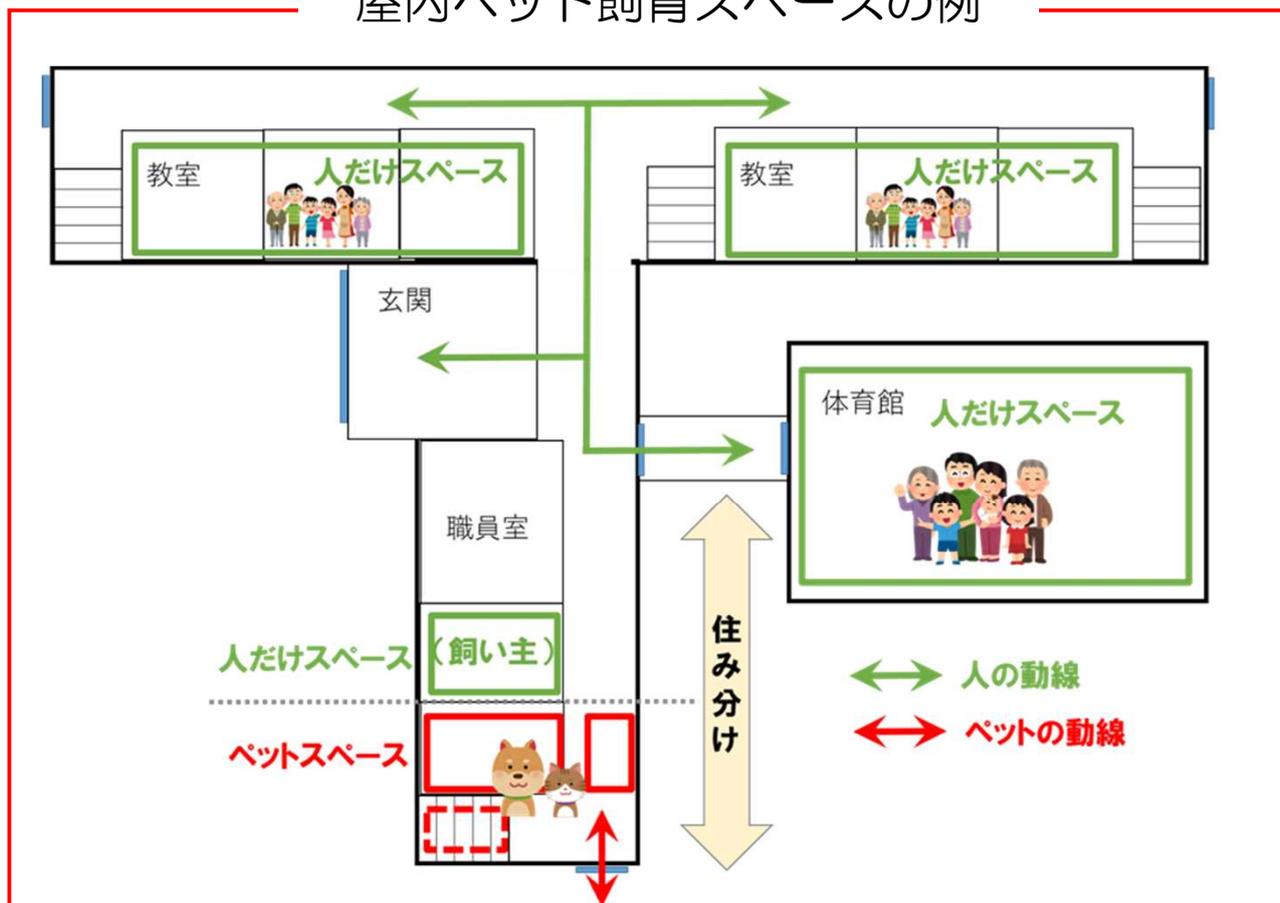
- ペットを飼育していない方との動線ができるかぎり交わらない。
- 鳴き声やニオイ等の問題を考慮して、ペットを飼っていない一般の避難者の居室から離れた場所に設置する。
- 飼い主の居室は、できるだけペット飼育スペースの近くに作る。
- ペットへの刺激を減らすため、人や車などの通り道から見えない場所にする。
- 犬と猫は分けて飼育場所を確保する。
- 水道に近く、掃除がしやすい場所を選ぶ。
- 屋外にする場合は、風雨や日光、寒さをしのげる場所とする。
- 犬を係留して飼う場合は、丈夫な支柱がある場所を選ぶ。
- 部外者が勝手に近づいて事故などが起こらないよう、部外者の立入制限をかけやすい場所を選ぶ。

※すべてを満たす必要はありません。実情に応じてより良い場所を設定してください。
 ※発災後、被害状況により想定していたペット飼育スペースを使用できない場合や、飼い主から場所変更の相談があるかもしれません。その際は、場所の変更を検討してください。

【過去の災害で使用されたペット飼育スペースの例】

- 体育館の倉庫
- 裏口の風除室
- プール用の更衣室
- 渡り廊下
- 階段の踊り場
- 階段の下
- 屋内ゲートボール場
- 弓道場
- 職員用玄関
- 音楽室等防音設備のある部屋など

屋内ペット飼育スペースの例



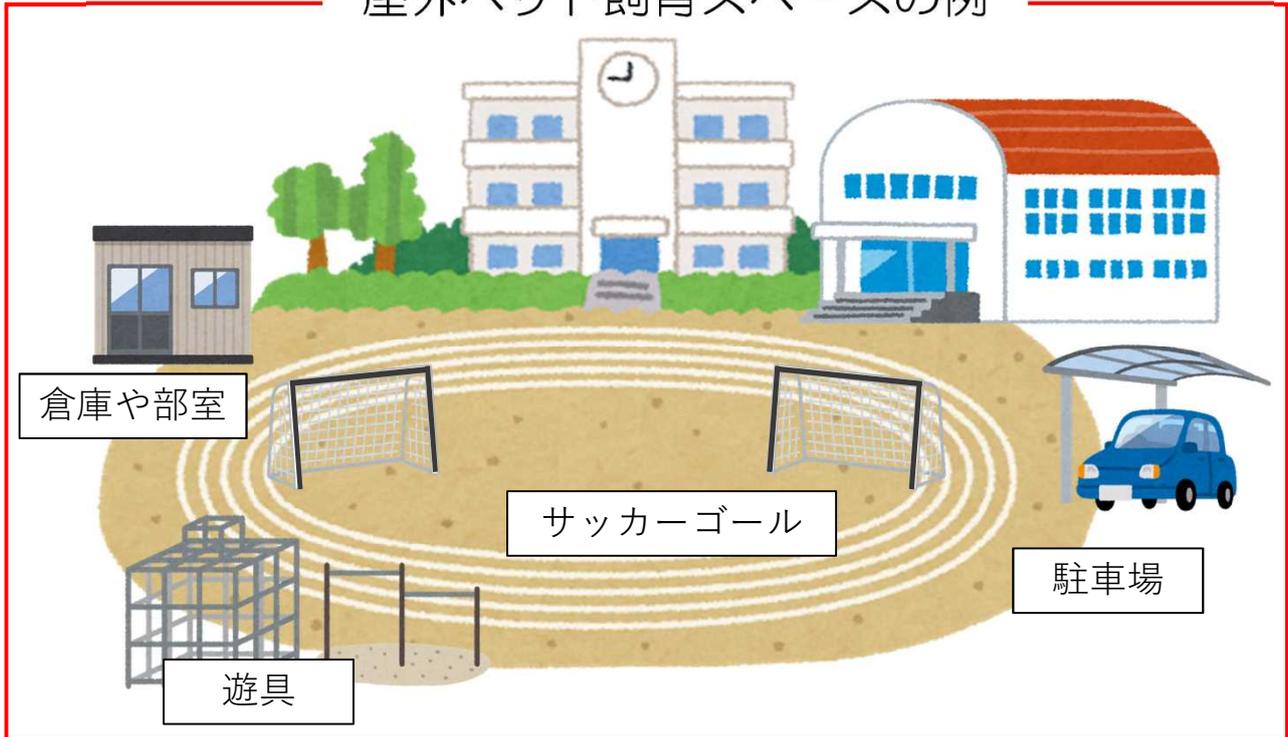
犬も猫もケージでの飼育を基本とし、動物種ごとに分けて飼育場所を確保します。ペットの鳴き声対策のため、飼い主の居室はできるだけペット飼育スペースに近い場所に設置します。

ペット飼育スペースに余裕がある場合は、飼い主がペット飼育スペースに寝泊まりする形の避難も検討しましょう。ペットも落ち着き、鳴き声などのトラブル防止につながります。

人の居住スペースに余裕がある場合は、飼い主とペットが一緒に居住できる専用のスペースを設けることなどを施設管理者と相談の上、避難所運営本部会議で検討しましょう。

避難終了後にニオイや汚れが残らないよう、ペットスペースにはブルーシートを敷いて養生し、日常の清掃の際も市販の塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウムの入ったもの）を使って清拭すると消毒とともに消臭効果が得られます。

屋外ペット飼育スペースの例

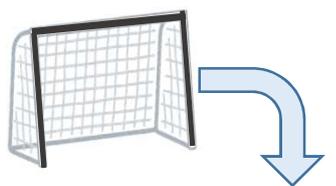


津波や台風、豪雨災害の際は、被害を避けるために一時的でも屋内に退避するしかありません。また、屋外は天候の影響を大きく受けるため、想定される災害や季節により限定的な使い方となることを考慮する必要があります。

学校には屋外にも物置や車庫、自転車置き場、校舎の軒下、ピロティなど人の居住には向かなくてもペットには有効に使える場所があります。

運動会用の大型テントをペットの一時飼育場所とした事例や、自転車置き場をブルーシートで囲い、中～大型犬の係留飼育場所とした事例もあります。サッカーゴールや遊具はブルーシートで四方を囲うことで、雨をしのぐことができ、中～大型犬の係留場所として利用できます。

車庫や倉庫は人が使うには難しいかもしれませんが、ペット飼育スペースとして利用できる、屋根のある貴重な場所です。原則、ケージでの飼育管理となり、収納されている物品等の撤去など、事前の調整が必要です。



横に倒し安定させ
ブルーシートで囲う



テントや屋根のある場所を
ブルーシートで囲う





津波や水害時は、ペットも高層階へ避難！

水害の場合は、水が引くまで安全が確保できません。

東日本大震災では、せっかく飼い主さんといっしょに避難所まで逃げてきたものの、動物は建物の中に入れてもらえず、避難後に襲ってきた津波によって外にいた動物たちが亡くなってしまった事例もありました。



緊急時は、中長期的な避難生活を想定した避難所運営のルールにこだわるのではなく、臨機応変な対応が必要です。水害が落ち着くまでは、ペットも含め高層階へ避難ができるよう、あらかじめ避難所関係者に周知しましょう。



ペットが落ち着いて過ごすために・・・

避難時は、人だけでなく動物たちもとても不安な気持ちになっています。そして、避難所では、狭い場所で知らない動物同士と一緒に過ごすことになります。

動物たちの不安を少しでも取り除くためにどうしたら良いのでしょうか。飼い主の不安はペットにも伝わりますので、まずは飼い主自身が落ち着きましょう。

動物たちへの刺激を減らすため、できるだけ人通りの少ない静かな場所で段ボールやバスタオル、毛布などでケージに目隠しをします。避難時の持ち出し品の中に、バスタオルも入れておきましょう。犬と猫の飼育場所はできるだけ離すか、可能であれば、別々の区画で世話をするとよいでしょう。

また、飼い主以外の方が、無断でペット飼育スペースに入ったり、のぞき込んだりしないよう、注意書きも掲示しましょう。



3 飼育管理の基本ルールの作成

ペット同行避難が可能な避難所については、ペット飼育管理の基本ルールを決めておきましょう。また、基本ルールについて、事前に飼い主に情報提供しておけば、飼い主に防災に対する心構えやペットのしつけ等を意識してもらうことにも繋がります。

基本ルールの例（資料①）

避難所全体のルール

- 避難所運営本部の指示に従うこと
- ペットは指定された場所で飼い主が責任を持って世話をすること
- 避難所運営本部会議等で検討しないまま、ペットを居室に入れないこと



ペット飼育スペースのルール

- 建物の壁や床を汚さないように気をつけること
- エサの時間を決めておき、終わったら片づけること
- 夜間はペットとのふれあいを控えること
- 定期的に清掃を行い、ニオイの発生防止に努めること
- 犬の散歩で発生したフンは確実に片付けること



ヒント ルールは初めから詳細に決めたほうがいい？

大規模災害など避難が長期化した場合、避難者によって生活のパターン（例:避難所から仕事に向かう方、日中も避難所に留まる方など）が変わってきます。その中で一律に詳細なルールが決められていると、飼い主によっては対応できない場合がでてきます。

ペットの管理は飼い主の責任（自助）ですが、飼い主同士で共に助け合う流れ（共助）ができれば、飼い主個人や避難所運営者の負担軽減にもつながります。

例えば、避難生活を共にする飼い主同士で「飼い主の会（仮称）」を立ち上げてもらい、避難所の実情に合わせた詳細なルール作りを促すとよいでしょう。

基本ルールの例

給餌、ふれあい	※早朝や夜間は望ましくない
<ul style="list-style-type: none"> ・時間の指定 ・場所の指定 ・被毛などゴミの廃棄場所、廃棄方法 	
犬の散歩	
<ul style="list-style-type: none"> ・時間の指定 ・場所の指定 ・他の居住者の動線と交わらないコースを指定 	
排泄場所	
<ul style="list-style-type: none"> ・屋外の場所を指定 ・回収した排せつ物の集積場所と捨て方 	
清掃	
<ul style="list-style-type: none"> ・お散歩コース ・排せつ場所 ・ペット飼育スペースは、担当や方法を決めて定期的に清掃 	
フードの保管場所	
<ul style="list-style-type: none"> ・個別に保管 ・全体で一括して保管 	
退去時の清掃	
<ul style="list-style-type: none"> ・飼い主が協力して元の状態に戻し、きちんと清掃し消毒する 	
迷惑をかけないための対策	
<p>【鳴き声の対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吠える犬には段ボールなどで目隠しする ・係留場所、ケージの場所を工夫する (なるべく動物への刺激が少ない場所) <p>【ニオイの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餌は食べ残したらすぐ片付ける ・餌の袋の口はきちんと閉じる ・排泄物は必ずビニール袋を二重にして、しっかりと縛って捨てる <p>【毛の対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラシをかけて良い場所を指定する ・居室に入る前に粘着ローラーやガムテープで衣服についた毛を取る 	

4 飼い主への周知及び普及啓発

(1) 受入体制の周知

ペットを受け入れる避難所の選定ができれば、これを住民に周知しましょう。

平時から飼い主が避難所に関する情報を入手できるようにしておけば、発災直後の混乱を防ぐことができます。

(2) 飼い主が行う備えについて

避難所にペット関連の支援物資が届くまでは時間を要するため、ペットの飼育環境を整えるのは飼い主による 自助 が基本となります。

平時からペットの飼い主に災害対策を呼びかけることで、災害時の混乱を減らすことができるだけでなく、避難所の運営にも協力してもらえるようになります。資料⑤の啓発リーフレットを活用し、積極的に啓発しましょう。



(例) 和歌山市は、避難所へペットを連れて避難することができることや、飼い主がやっておくべき対策について、下のようにホームページで周知しています。

ペットの災害対策

ページ番号1002098

更新日 令和6年3月14日

災害発生時に和歌山市が開設する指定避難所へは、ペットを連れて避難すること（同行避難と言います。）ができます。

災害時にペットと一緒に避難できるように日ごろから準備をしておきましょう。

万一の時、「家族」を守ることができるのは飼い主さんだけです！

なお、避難所の詳しい場所等については、「災害時における避難所及び避難場所一覧表」のページをご覧ください。

[災害時における避難所及び避難場所一覧表](#)

人とペットの災害対策リーフレット

人とペットの災害対策について、3つ折りリーフレットを作成しましたので、ダウンロードしてご活用ください。

[人とペットの災害対策リーフレット \(PDF 470.0KB\)](#) □

5 ペット同行避難訓練

避難所のペット飼育スペースが選定できたら、ぜひペットの同行避難訓練を実施してください。

まずは、飼い主がペットとともに避難する疑似体験から始めてはいかがでしょうか。これにより同行避難の周知にもつながります。

以降は、同行避難者用の受付設置やペット飼育スペースでの管理体制など、実際の避難を想定した訓練に移行していきます。

訓練は、やってみないと課題は見えないものです。ペットを伴った避難訓練をする際には、動物愛護センター、管轄の保健所もアドバイスをいたしますので、ご相談ください。

なお、実際にペットを連れて同行避難訓練をする際には、ペットの逸走がないように、キャリーバックに入れるか、首輪とリードが外れないよう十分に注意するよう飼い主に事前に周知しましょう。

(参考) 和歌山市で開催した同行避難訓練の様子

※ペットのケージやリードは参加者に持参してもらいましょう。



ペットを連れてきた人の受付



ペットの飼育スペース



ケージ体験



ペット用仮トイレ

災害時の対応

ペットの入所受付

避難所では、避難者の状況等を把握するため「受付」を行います。ペットを受け入れる避難所では、同行避難者用の受付窓口を設置することで、不要な混乱を避ける一助となります。

(1) 受付内容

飼い主とペットの情報を入手して名簿（資料②）を作成します。この際、ネームプレート（資料③）を渡してケージなどに装着してもらおうと管理する上で役立ちます。なお、飼い主がペットの写真を持参していれば名簿に付けておくとよいでしょう。

入手情報の一例

- 飼育者の氏名及び緊急連絡先（避難所内の居場所等）
- 動物の種類と特徴（性別、不妊去勢の有無、毛色など）
- 狂犬病予防注射接種の有無、混合ワクチン接種の有無
- 病気の有無、かかりつけ動物病院など

(2) 基本ルール順守の説明

受付では「飼育管理の基本ルール」を周知します。ただし、受付は非常に混乱するため説明が難しいかもしれません。あらかじめチラシ（資料①）を準備し、受付時に配布することをお勧めします。

(3) ペット飼育スペースへの移動

受付後、飼い主とペットを飼育スペースに誘導します。併せて、一般受付が必要な場合は、飼い主だけを一般受付に誘導します。



避難所への入所が完了したら、予め決めておいたルールに沿って飼い主がペットの飼育管理を行います。（p10参照）

飼い主同士で「飼い主の会（仮称）」を立ち上げるなどして、ペットについての情報のとりまとめをお願いし、情報共有しておくことで、発災直後の不要な混乱を避けることに繋がります。

ペット飼育スペースが決まっていない場合の対応



※避難者の居室や動線について考慮しないまま、ペットを人の居住区域に入れるとトラブルになる可能性があります。

- ① 一時的にペットを置いておく場所を決める。
(けい留等が可能で人から離れた場所)
- ② 避難者の受付などが落ち着いてきたら、ペット飼育スペース選定のポイント（P5～6）を参考に場所を決定する。
必要に応じて、飼い主からの意見も取り入れましょう。



盲導犬など身体障害者補助犬は居室への同居が必要となります。

あらかじめ避難所に障害に応じた適切なスペースを確保しておく必要があります。



⚠️ 車中やテントの避難者への注意点

プライバシーが保たれることや、感染症の予防などの観点から、やむを得ずテントや車を利用してペットと同居する方も想定されます。

車などの狭いスペースで長時間過ごすことで、エコノミークラス症候群※や、時期によっては熱中症を発症する恐れがあります。

飼い主には、エコノミークラス症候群を予防するため定期的な運動や水分補給を心がけ、ペットも熱中症にならないよう水分補給させるよう呼びかけましょう。

👉 ヒント エコノミークラス症候群を予防するために

- ① ときどき、軽い体操やストレッチ運動を行う。
- ② こまめに水分を取る。
- ③ アルコールを控える。できれば禁煙する。
- ④ ゆったりとした服装をし、ベルトをきつく締めない。
- ⑤ かかとの上げ下ろし運動をしたりふくらはぎを軽くもんだりする。
- ⑥ 眠るときは足をあげる。（高くする）



※エコノミークラス症候群とは・・・

食事や水分を十分に取らない状態で、車などの狭い座席に長時間座っていて足を動かさないと、血行不良が起こり、血液が固まりやすくなります。その結果、血の固まり（血栓）が血管の中を流れ、肺に詰まって肺塞栓などを誘発する恐れがあります。



【資料編】

- ①避難所でのペット飼育管理ルール
- ②避難動物一覧表
- ③ネームプレート
- ④ペットの飼育共同作業表
- ⑤飼い主への啓発リーフレット

避難所でのペット飼育管理ルール（例）

- ◆ 避難所での暮らしは、限られたスペースでの共同生活であり、ペットの飼い主と飼育していない人のお互いの理解が必要です。
- ◆ 動物が苦手な人やアレルギー疾患を持っている人のことを配慮し、人と動物が少しでも気持ちよく過ごせるように次のことを守ってください。

- 1 ペットは指定された場所で、必ずリードにつなぐか、ネームプレートを着けたケージなどに入れて、逃がさないよう注意して飼ってください。また、避難所運営本部会議等で検討しないまま、ペットを人の居室に入れしないでください。
- 2 ペットには、飼い主の氏名と連絡先を書いた迷子札など、身元が分かるものを着けてください。また、ムダ吠えを防ぐためケージを段ボールや毛布等で覆ってください。
- 3 ペットの管理は、抜け毛、ニオイ、鳴き声などで周囲に迷惑をかけないように飼い主が責任をもって行ってください。
 餌やり、水やり ペットの手入れ（体を清潔に） 散歩
 ケージや飼育場所周辺の清掃 フン尿の後始末など
- 4 餌や水を与えたら、その都度きれいに片づけてください。
- 5 排泄は屋外の決められた場所でさせ、必ず後始末を行ってください。
運動やブラッシングは、屋外の決められた場所で行ってください。
- 6 散歩のときは必ずリードをつけ、周囲の方の迷惑にならないよう配慮してください。散歩中に屋外でしたオシッコは、ペットボトルで水を持参し流してください。
- 7 ゴミは専用のごみ箱に分別し、ゴミ出しは飼い主さんが行ってください。
フンはビニール袋に入れ、ニオイが漏れないようしっかりと縛ってください。
- 8 ペットの飼育に必要なケージなどの資材や餌は、飼い主が用意することが原則です。もし、用意できなかった場合は、保健・衛生班を通じて避難所運営本部に相談してください。
- 9 ペットが原因となる苦情や危害が発生しないように努めてください。
他の避難者との間でトラブルが生じた場合は、速やかに避難所運営本部に連絡してください。
- 10 退所時は使った場所をきれいに清掃・消毒し、届け出てください。

ネームプレート

(ケージなどに貼り付けましょう)

No.

飼い主氏名 _____ 電話番号 _____ 居室 _____

名 前				年 齢	歳	
動物種	犬 ・ 猫 ・ その他 ()			品 種		
性 別	オス ・ メス ・ 不妊去勢済			体 格	大 ・ 中 ・ 小	
混合 ワクチン	済・未	フィラリア 予防	済・未	(犬) 狂犬病 予防接種	済・未	
性 格	人なつっこい ・ 大人しい ・ 咬む ・ 吠える ・ 鳴く					
家庭での 飼育環境	屋外 ・ 室内 ・ ケージ ・ 屋外出入り自由 その他 ()					
その他						

(ネームプレート記載例)

名 前	きいちゃん			年 齢	5 歳	
動物種	犬 ・ 猫 ・ その他 ()			品 種	紀州犬	
性 別	オス ・ メス ・ 不妊去勢済			体 格	大 ・ 中 ・ 小	
混合 ワクチン	済・未	フィラリア 予防	済・未	(犬) 狂犬病 予防接種	済・未	
性 格	人なつっこい ・ 大人しい ・ 咬む ・ 吠える ・ 鳴く					
家庭での 飼育環境	屋外 ・ 室内 ・ ケージ ・ 屋外出入り自由 その他 (夜間や夏場は室内)					
その他	腎臓病のため、特別なエサしか食べられません。食べ物を与えないでください。 急に触られると咬むことがあるため、触らないで下さい。					

病気や性格など、周囲に伝える必要があることを記載してください。

資料④

ペットの飼育共同作業表

日 時	項 目	作 業 区 分		
		飼育場所	飼育場所周辺	共用トイレ・共用場所
月 日 時間：	担当名			
	実施内容			
	申し送り事項			
月 日 時間：	担当名			
	実施内容			
	申し送り事項			
月 日 時間：	担当名			
	実施内容			
	申し送り事項			
月 日 時間：	担当名			
	実施内容			
	申し送り事項			
月 日 時間：	担当名			
	実施内容			
	申し送り事項			

◎万一、はぐれてしまった時のために
ペットの特徴を書いておきましょう。

(ペットの特徴がわかる写真を貼付)

ペットの情報

名前		生年月日	
種類		性別	
毛色		不妊手術の有無	
既往歴			
かかりつけ病院			
特徴	マイクロチップ 番号：		

飼い主の情報

名前	
住所	
電話	
緊急時の連絡先	

～もっと詳しく知りたい方へ～



「災害、あなたと
ペットは大丈夫？」
人とペットの災害対策
ガイドライン (環境省)



ペットも守ろう！
防災対策
(環境省)



備えよう！
いつも一緒にいたいから
(環境省)

人とペットの災害対策



災害が起こった時、あなたと
あなたの大切なペットを守るために
今、できることを考えましょう！

〇〇町

【問い合わせ】〇〇町△△課

電話：
FAX：

日頃の備え

★住まいの防災対策

災害時にペットを守るためには、まず、飼い主が無事であることが前提となります。そのために家具の固定などの対策もしましょう。また、ケージなど飼育場所の安全も確認しましょう。



★しつけと健康管理

災害時にスムーズに避難できるように、キャリーケージに慣らす、無駄吠えをしないなどのしつけをしておきましょう。また、避難生活はペットにとってもストレスとなり免疫力が低下することもあります。普段から病気の予防しておきましょう。



- 狂犬病ワクチン(犬)
- 伝染病予防ワクチン
- ノミダニ等寄生虫予防
- 不妊去勢手術

- 嫌がらずにケージに入る
- 決められた場所での排泄
- むやみに吠えない(犬)
- 人を怖がったり攻撃しない



★飼い主の明示

災害時にはペットと離れ離れになってしまうことも考えられます。保護された際に、飼い主のもとへ戻れるようにマイクロチップや連絡先を描いた迷子札を装着しましょう。



※犬の鑑札と狂犬病予防注射済票の装着は、狂犬病予防法で義務付けられています。

※県動物愛護管理条例により、飼い猫には所有明示が義務付けられています。

★ペット用防災グッズの備蓄

避難先でペットの飼育に必要なものは飼い主が用意しておく必要があります。ペットの救援物資が届くのは時間がかかるため、少なくとも5日分は用意しておきましょう。



どのように避難するか
家族で相談しておきましょう!

ペットのための持出品リスト

優先順位1：命や健康に関わるもの

- 療法食、薬
- エサ、水(5日分以上)
- 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- キャリーバッグやケージ
- ペットシート、猫砂
- 排泄物の処理用具
-

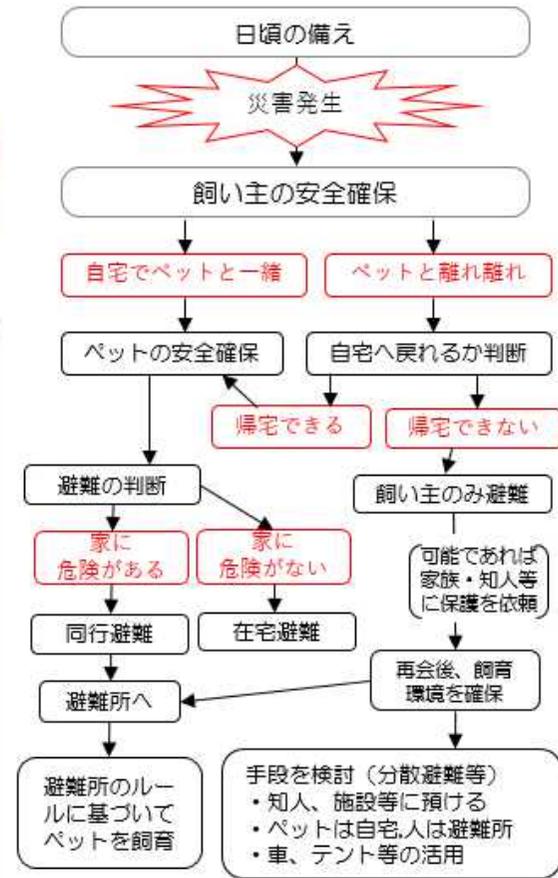
優先順位2：飼い主やペットの情報

- 飼い主の連絡先
- ペットの写真
- ワクチン接種状況
- 既往歴、健康状態
- かかりつけの動物病院
-

優先順位3：ペット用品

- タオル、ブラシ
- 洗濯ネット(猫の場合)
- ビニール袋
- お気に入りのおもちゃ
- ガムテープ、マジック
-

災害発生時のフローチャート



〇〇町の避難所

(各市町村における同行避難の可否等について記載)

指定避難所の
確認はこちら

各自治体の避難所
に関するHPの2次元
バーコードを掲載

あなたの地区の避難所は

市町村及び避難所運営者のための
ペット同行避難所運営マニュアル

令和7年3月

本マニュアルに関する問い合わせ先

和歌山県 環境生活部生活局 生活衛生課
TEL 073-441-2630

和歌山県動物愛護センター
TEL 073-489-6500

資料 1 4 要配慮者ニーズ調査表

			記入日	年 月 日	
ふりがな 氏 名		男 女	明・大 昭・平	年 月 日生	歳
住 所			家 屋 の 被 害 状 況	全壊 半壊 全焼 半焼 被害僅少 被害なし	
要 配 慮 区 分	1 要介護 2 視覚障害 3 聴覚障害 4 言語障害 5 肢体不自由 6 内部障害 7 知的障害 8 精神障害 9 発達障害 10 認知症 11 乳幼児 12 妊産婦 13 難病 14 傷病 15 外国人 16 アレルギー 17 その他() 食物アレルギーの対象食料や負傷・疾病の状況、外国人の国籍・言語・日本語能力等				
家 族	1 ひとり暮らし(別居の親族無) 2 ひとり暮らし(別居の親族有) 3 高齢者のみの世帯(夫婦等) 4 その他同居家族有				
介 護 者	有() 無		連絡先		
自 立 度	1 ほぼ自立 2 一部介助() 3 全介助				
健康状態	1 良好 2 おおむね良好 3 普通 4 要注意 5 悪い				
医療依存	1 人工透析(回/週) 2 酸素吸入 3 経管栄養 4 服薬() 5 その他()				
帰住先の 見 込 ・ 意 向	1 福祉避難所 2 緊急施設入所 3 短期入所 4 入院 5 親族等の受入れ 6 仮設住宅希望 7 条件次第で帰宅 8 見込・意向なし(どこでもよい)				
支 援 希 望	1 福祉避難所へ移動 2 ホームヘルパー等の派遣 3 手話通訳者の派遣 4 要約筆記者の派遣 5 医師の診察・治療 6 保健師による巡回指導・訪問看護 7 補装具・日常生活用具の給付 8 物資・薬品の提供() 9 アレルギー対応食の提供 10 生活に支障なし 11 その他()				

(以下については、要配慮者班にて記入)

記 入 者		調査日時	年 月 日 時 分
対 応 結 果	1 入院 2 緊急施設入所 3 短期入所 4 親族等受入れ 5 福祉避難所(施設)へ移送 6 仮設住宅・市営住宅等に入居 7 福祉避難スペースへ移動 8 ホームヘルパー派遣 9 手話通訳者の派遣 10 要約筆記者の派遣 11 医師の診察・治療 12 保健師による巡回指導・訪問看護 13 定期的見守り 14 補装具・日常生活用具の給付 15 アレルギー対応食の提供 16 物資の提供() 17 その他()		

資料 1 5 避難所における要配慮者名簿

記載日	ふりがな氏名	性別	要配慮区分	介護者	自立度	健康状態	医療依存	帰住先	支援希望	備考
		生年月日								
		男・女		有・無						
		男・女		有・無						
		男・女		有・無						
		男・女		有・無						

要配慮区分	1.要介護 2.視覚障害 3.聴覚障害 4.言語障害 5.肢体不自由 6.内部障害 7.知的障害 8.精神障害 9.発達障害 10.認知症 11.乳幼児 12.妊産婦 13.難病 14.傷病 15.外国人 16.アレルギー 17.その他()
自立度	1 ほぼ自立 2 一部介助 3 全介助
健康状態	1 良好 2 おおむね良好 3 普通 4 要注意 5 悪い
医療依存	1 人工透析 2 酸素吸入 3 経管栄養 4 服薬 5 その他
帰住先	1 福祉避難所 2 緊急施設入所 3 短期入所 4 入院 5 親族等の受入 6 仮設住宅希望 7 条件次第で帰宅 8 見込・意向なし(どこでもよい)
支援希望	1 福祉避難所へ移動 2 ホームヘルパー等の派遣 3 手話通訳者の派遣 4 要約筆記者の派遣 5 医師の診察・治療 6 保健師による巡回指導・訪問看護 7 補装具・日常生活用具の給付 8 物資・薬品の提供() 9 アレルギー対応食の提供 10 生活に支障なし 11 その他()

資料 16 要配慮者の留意事項

区分	避難所での留意事項
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ出入口やトイレに近い場所を確保するなど、移動が少なく済むように配慮します。 ・段ボールベッドやエアベッド等の簡易ベッドを設置する。 ・体育館等床面が滑りやすい施設の場合はマットやシート等を敷く等、転倒を防止するよう配慮します。 ・認知症高齢者については、あわただしき雰囲気であると、落ち着かなくなる傾向があります。できるだけ雑音の少ない場所などを本人と家族のために確保しましょう。 ・徘徊の症状がある認知症高齢者については、周囲の人にも声をかけてもらったり、見守っていただくよう依頼します。
妊産婦	<ul style="list-style-type: none"> ・被災による精神的なショック、避難所で人間関係のストレスから体調にも影響を及ぼしやすいので、一人で悩まず、感じていることを話せるよう配慮したり、カウンセリングや健康相談を実施して、不安を軽減できるように努めます。 ・食事については、弁当やインスタント食品が中心となると塩分の摂取量が増加したり、タンパク質やビタミンなどが不足がちになるため、可能な限りバランスの良い食事がとれるように配慮するとともに、十分な量の食事がとれているか確認します。 ・産婦については、授乳やおむつ換え、夜泣きなどに考慮して、授乳室や育児室を設置しましょう。 ・段ボールベッドやエアベッド等の簡易ベッドを設置する。
災害孤児	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少であると、一人で避難所生活を送ることが困難である。周囲の大人による見守りが必要です。 ・突然肉親が居なくなったことにより、精神的に不安定となることがあるため、心のケアが必要になります。
外国人	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所における各部屋や窓口の案内等の掲示等は、外国語あるいはイラスト等でわかりやすく伝えるほか、日本語の表記をやさしい日本語などで平易にするよう心がけます。 ・地震・台風等の自然災害の経験が乏しい外国人においては、日本人より精神的に不安定になる可能性があるため、心理的不安への配慮も必要です。 ・コミュニケーションをとる際は、やさしい日本語を使用し、多言語指さしボードや通訳翻訳機器・アプリも活用します。
視覚障害のある人	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ出入口やトイレに近い場所を確保するなど、移動が少なく済むように配慮します。 ・段ボールベッドやエアベッド等の簡易ベッドを設置する。 ・食事、トイレ、入浴などの必要な情報は、放送やハンドマイク等により音声で伝達します。 ・トイレなど部屋の配置がわかるように避難所の中を案内します。 ・通路などに歩行の妨げになる物がないか、気をつけます。

区分	避難所での留意事項
聴覚・言語障害のある人	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報はプラカードやホワイトボード等により視覚情報で伝達します。 ・手話や筆談、口話などにより情報を伝えます。 ・手話通訳者、要約筆記者の配置に努めます。 ・出来るだけ早くファックスを設置し、知人などへの連絡に配慮します。
肢体不自由のある人	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ出入口やトイレに近い場所を確保するなど、移動が少なくすむように配慮します。 ・段ボールベッドやエアベッド等の簡易ベッドを設置する。 ・車椅子を降りてリラックスできるスペースを確保します。 ・通路に障害物がないか気をつけ、車いすや松葉杖の利用者が通れるスペースを確保します。また、避難所のトイレが使用できない場合があるので、本人によく確認します。
内部障害のある人	<ul style="list-style-type: none"> ・疲れやすいなど、外見からは分かりにくい不便さを抱えているので、できるだけ負担をかけないようにします。 ・常時使用することが必要な医療器具(酸素ボンベ等)や医薬品を調達します。 ・医療行為を受ける必要のある人は自主的に申し出てもらい、早急に受け入れ病院の確認や移送手段を確保します。 ・できるだけ出入口やトイレに近い場所を確保するなど、移動が少なくすむように配慮します。 ・段ボールベッドやエアベッド等の簡易ベッドを設置する。
知的障害のある人	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の変化を理解できずに気持ちが混乱したり、状況に合わせた行動ができない人がいます。また、治療や投薬が欠かせない人もいるので、障害の状況に応じた支援を行います。 ・読み書きや計算が困難な場合があるため、ゆっくり話しかけ、文字にはルビを振ります。 ・トイレ、食事、入浴などの必要な情報が理解できているか、声をかけ確認します。 ・出来る限り顔を知っている人等にそばにいてもらうようにします。
発達障害のある人	<ul style="list-style-type: none"> ・遠回しな言い方やあいまいな表現は理解しにくい場合があるので、具体的に短い言葉で、ゆっくりと分かりやすく、やさしい口調で話しかけます。 ・否定的な言動には過敏な人が多いので、「〇〇しない」ではなく「〇〇しましょう」と肯定的な言葉かけをします。 ・パニック状態になっている場合は、刺激しないよう、また危険がないように配慮しながら、落ち着くまでしばらく見守ります。カづくで押さえつけることは逆効果となります。 ・音を遮断するヘッドフォンやサングラス、マスクを使用できるように配慮してください。

区分	避難所での留意事項
精神障害のある人	<ul style="list-style-type: none"> ・不安を感じさせない穏やかな対応が必要です。 ・相手の伝えたいことをゆっくりと、根気よく聞くようにします。 ・落ち着いて、ゆっくりと具体的な言葉で分かりやすく説明します。必要に応じて繰り返します。 ・薬を正しく服用しているか注意するとともに、何らかの症状が出た時には、早めに医療救護所やかかりつけの医師に相談するようにします。
難病患者 人工透析患者 等	<ul style="list-style-type: none"> ・難病患者については、疾患に応じた医薬品の確保、配布など早急に対応が必要です。 ・人工透析患者については、早急に透析医療の確保(確保日数の目安は透析間隔である3～4日以内)が必要です。 ・人工呼吸器装着者については、電力の停止が生命に直結することから最優先の救援を必要とします。電源を確保してください。 ・在宅酸素療法や薬物療法等が継続的に必要な患者に対しても早急に医療確保が要となります。 ・できるだけ出入口やトイレに近い場所を確保するなど、移動が少なくてすむように配慮します。 ・段ボールベッドやエアベッド等の簡易ベッドを設置する。
性的少数者	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレは、男女別のほか男女共用も設置するなど、利用しやすいよう配慮します。 ・更衣室や入浴施設は、一人ずつ使える時間帯を設けるよう配慮します。 ・生理用品や下着など周囲に人がいる状況で受け取りにくい物資は、個別に受け取られるよう配慮します。

ボランティア活動に参加される方へ

当避難所内においてボランティア活動を行う場合に、以下の点にご注意いただくようよろしくお願いいたします。

- ▼ 事前に社会福祉協議会等において保険の加入手続きを済ませてください。
 - 当避難所において、災害ボランティアの登録や保険の加入手続きをすることはできません。

- ▼ ボランティア活動記録簿の記入をお願いします。
 - 当避難所においては、ボランティア活動記録簿に記入をしていただきます。
 - 記入後、担当者から依頼内容について詳しく説明しますので、指示に従ってください。
また、避難所内では、胸や腕などの見えやすい位置に、必ず災害ボランティアセンターで配布された名札を付けてください。
(直接受け入れる場合) 当方で作成する(名札・腕章)を付けてください。

- ▼ 体調管理等にはご注意ください。
 - ボランティアの皆様には危険な作業はお願いしませんが、万が一疑問があれば、作業に取りかかる前に担当者にご相談ください。
 - 体調の変化や健康管理には、各自でご注意の上、決して無理をしないようお願いいたします。

- ▼ 避難者のプライバシー保護に御協力ください。
 - 原則として、依頼された場所での活動をお願いします。避難者の心情に配慮し、居住空間への無断での立ち入りは控えてください。
 - 避難所内の撮影をする場合は、必ず避難者の許可をとってください。

- ▼ 活動終了後は報告してください。
 - 活動が済みましたら、担当者もしくは受付に申し出て確認を受けてください。

資料 18 ボランティア活動記録簿

受付年月日	年 月 日
整理番号	
記録担当者	

		この避難所 での活動回数		初回・回目	
ふりがな 氏名 団体名		性別		職業： 活動人数： 男性 名 女性 名	
住所	〒			電話：	(方)
緊急時 連絡先	氏名：		電話： 携帯：		
活動内容					
活動期間	月 日 から		月 日 (予定)		
活動時間	時 分 から		時 分 まで		
ボランティア保険 加入の有無	有 ・ 無				

- ※ ここで知り得た個人情報、目的のため以外は使用しません。
- ※ 団体に登録する場合は、代表者氏名を記入し、団体の構成員については各団体の代表者が必ず把握してください。

活動終了日	年 月 日
-------	-------

エコノミークラス症候群 予防のために

○ エコノミークラス症候群とは

食事や水分を十分に取らない状態で、車などの狭い座席に長時間座っていて足を動かさないと、血行不良が起こり血液が固まりやすくなります。その結果、血の固まり（血栓）が血管の中を流れ、肺に詰まって肺塞栓などを誘発する恐れがあります。

○ 予防のために心掛けると良いこと

予防のためには、

- ① ときどき、軽い体操やストレッチ運動を行う
- ② 十分にこまめに水分を取る
- ③ アルコールを控える。できれば禁煙する
- ④ ゆったりとした服装をし、ベルトをきつく締めない
- ⑤ かかとの上げ下ろし運動をしたりふくらはぎを軽くもんだりする
- ⑥ 眠るときは足をあげる

などを行いましょう。

○ 予防のための足の運動



生活機能低下を防ごう!

「生活不活発病」に注意しましょう

生活不活発病とは…

「**動かない**」(生活が**不活発**な)状態が続くことにより、心身の機能が低下して、「**動けなくなる**」ことをいいます。

避難所での生活は、動きまわることが不自由になりがちなことに加え、それまで自分で行っていた掃除や炊事、買い物等などができなかったり、ボランティアの方等から「自分達でやりますよ」と言われてあまり動けなかったり、心身の疲労がたまったり… また、家庭での役割や人との付き合いの範囲も狭くなりがちで、生活が不活発になりやすい状況にあります。

生活が不活発な状態が続くと心身の機能が低下し、「生活不活発病」となります。

特に、高齢の方や持病のある方は生活不活発病を起こしやすく、悪循環^注となりやすいため、早期に対応することが大切です。

注) 悪循環とは…

生活不活発病がおきると、歩くことなどが難しくなったり疲れやすくなったりして「動きにくく」なり、「動かない」ことでますます生活不活発病はすすんでいきます。

予防のポイント

- 毎日の生活の中で活発に動くようにしましょう。(横になっているより、なるべく座りましょう)
- 動きやすいよう、身の回りを片付けておきましょう。
- 歩きにくくなくても、杖などで工夫をしましょう。(すぐに車いすを使うのではなく)
- 避難所でも楽しみや役割をもちましょう。(遠慮せずに、気分転換を兼ねて散歩や運動も)
- 「安静第一」「無理は禁物」と思いこまないで。(病気の際は、どの程度動いてよいか相談を)



※ 以上のことに、周囲の方も一緒に工夫を。

(ボランティアの方等も必要以上の手助けはしないようにしましょう)

※特に、高齢の方や持病のある方は十分気をつけて下さい。

発見のポイント ～早く発見し、早めの対応を～

「生活不活発病チェックリスト」を利用してみましょう。

要注意(赤色の口)に当てはまる場合は、

保健師、救護班、行政、医療機関などにご相談ください。

生活不活発病チェックリスト

下の①～⑥の項目について、

地震前（左側）と 現在（右側）のあてはまる状態に印 をつけてください。

地震前

現在

① 屋外を歩くこと

- 遠くへも1人で歩いていた
- 近くなら1人で歩いていた
- 誰かと一緒なら歩いていた
- ほとんど外は歩いていなかった
- 外は歩けなかった

- 遠くへも1人で歩いている
- 近くなら1人で歩いている
- 誰かと一緒なら歩いている
- ほとんど外は歩いていない
- 外は歩けない



② 自宅内を歩くこと

- 何もつかまらずに歩いていた
- 壁や家具を伝って歩いていた
- 誰かと一緒なら歩いていた
- 這うなどして動いていた
- 自力では動き回れなかった

- 何もつかまらずに歩いている
- 壁や家具を伝って歩いている
- 誰かと一緒なら歩いている
- 這うなどして動いている
- 自力では動き回れない



③ 身の回りの行為（入浴、洗面、トイレ、食事など）

- 外出時や旅行の時にも不自由はなかった
- 自宅内では不自由はなかった
- 不自由があるがなんとかしていた
- 時々人の手を借りていた
- ほとんど助けてもらっていた

- 外出時や旅行の時にも不自由はない
- 自宅内では不自由はない
- 不自由があるがなんとかしている
- 時々人の手を借りている
- ほとんど助けてもらっている



④ 車いすの使用

- 使用していなかった
- 時々使用していた
- いつも使用していた

- 使用していない
- 時々使用
- いつも使用

⑤ 外出の回数

- ほぼ毎日
- 週3回以上
- 週1回以上
- 月1回以上
- ほとんど外出していなかった

- ほぼ毎日
- 週3回以上
- 週1回以上
- 月1回以上
- ほとんど外出していない



⑥ 日中どのくらい体を動かしていますか

- 外でもよく動いていた
- 家の中ではよく動いていた
- 座っていることが多い
- 時々横になっていた
- ほとんど横になっていた

- 外でもよく動いている
- 家の中ではよく動いている
- 座っていることが多い
- 時々横になっている
- ほとんど横になっている

次のことはいかがですか？

⑦ 地震の前より、歩くことが難しくなりましたか？

- 変わらない 難しくなった

⑧ ほかに、難しくなったことはありますか？

- ない ある → 和式トイレをつかう 段差(高い場所)の上り下り 床からの立ち上がり
 その他(具体的に記入を:)

氏名

(男・女, 才) 月 日現在

*このチェックリストで、赤色の (一番よい状態ではない)がある時は注意してください。

*特に 地震前 (左側)と比べて、 現在 (右側)が1段階でも低下している場合は、早く手を打ちましょう。

(「東北地方太平洋沖地震による避難生活に伴う心身の機能の低下の予防について」(平成23年3月29日付け厚生労働省老人保健課事務連絡)より)

資料22 ビブス・サインプレート・食物アレルギー防災カード

●ビブス（例）



●サインプレート（例）

<p>食物アレルギーがあります</p> <p><u>卵、牛乳</u></p> <p>を食べると具合が悪くなります。</p>	<p>保護者氏名： _____</p> <p>連絡先（電話番号）： _____</p> <p>かかりつけ医療機関</p> <p>病院・診療所名： _____</p> <p>所在地： _____</p> <p>電話番号： _____</p>
---	---

（表面）

（裏面）

●食物アレルギー防災カード（例）

* 平時から携帯しておくことが有効 *

<p>食物アレルギー防災カード</p> <p>(〇〇市)</p> <p>原因となるアレルゲン 卵、牛乳</p> <p>禁止食品</p> <p>卵、マヨネーズ、かまぼこ、ウインナー、揚げ物、牛乳、ヨーグルト、チーズ、バター、アイスクリーム、乳酸菌飲料など</p>	<p>ふりがな 氏名 _____</p> <p>連絡先（電話番号） _____</p> <p>かかりつけ医療機関</p> <p>病院・診療所名： _____</p> <p>所在地： _____</p> <p>電話番号： _____</p>
--	---

（表面）

（裏面）

資料 2 3 避難所等における感染症評価（症候群サーベイランス）用紙

- 避難者は①避難所到着時 ②できれば毎日（あるいは定期的2-3日毎等）③病院移送時に評価
- 避難所運営スタッフは毎日、自己評価

年 月 日 名前

あてはまるものの数字に○をつけてください。

1. 風邪の症状や発熱がある、または熱っぽい
 2. 上気道炎症症状（咳、鼻汁、咽頭痛など）がある
 3. インフルエンザ様症状（全身がだるい、寒気、頭痛、関節痛・筋肉痛など）がある
 4. 咳があり、息苦しい又は血がまざった痰がでる
 5. からだにぶつぶつ（発疹）が出ている
 6. からだにぶつぶつ（発疹）が出ていて、かゆみや痛みがある
 7. 唇や口の周りにぶつぶつ（発疹）が出ていて、痛みがある
 8. 首がかたい感じがしたり、痛かったりする
 9. 下痢便（水のような便、柔らかい便、形のない便、噴出すような便など）が出た
 10. 吐いた、または吐き気がする
 11. おなかが痛く、便に血がまざっている
 12. 目が赤く、目やにが出ている
 13. 創などがあり、膿がでたり、赤かったり、腫れていたたり、痛かったりする
 14. 小児である → 何歳（何ヶ月）？（ ）
- ※以下は、初回評価のみ
15. この3ヶ月間に入院したことがあり“多剤耐性菌（MRSA など）”があるといわれた
 16. 抗菌薬を飲んでいる（感染症の治療を受けている）→ なに？（ ）
 17. 被災後、予防注射を受けた → なに？（ ） いつ？（ ）

感染評価に基づく感染対策

避難所運営スタッフは「標準予防策」を行う。次の場合に「飛沫予防策」「接触予防策」「空気予防策」を追加。

（標準予防策等の具体的な方法は資料 26「避難所における隔離予防策」に記載）

- 1、2、3の1つ以上【インフルエンザ等？】→「接触予防策」と「飛沫予防策」を追加
- 1、2、3の1つ以上と14【小児呼吸器感染症？】→「接触予防策」と「飛沫予防策」を追加
- 4【結核やその他の感染症？】→「接触予防策」「飛沫予防策」「空気予防策」を追加し病院搬送を検討
- 1と5【水痘や麻疹等？】→「空気予防策」を追加し病院搬送を検討
- 1と5と8【細菌性髄膜炎等？】→「飛沫予防策」を追加し病院搬送を検討
- 6のみ【带状疱疹や疥癬等？】→「接触予防策」を追加
- 7のみ【単純ヘルペスウイルス感染症？】→「接触予防策」を追加
- 9または10【ノロウイルス感染症やその他の消化器感染症？】→「接触予防策」を追加
- 11【細菌性の急性下痢症？】→「接触予防策」を追加し病院搬送を検討
- 12のみ【ウイルス性結膜炎？】→「接触予防策」を追加
- 13のみ【創傷関連感染症？】→「接触予防策」を追加

資料24 掲示用「避難所等における感染症評価（症候群サーベイランス）用紙」

つぎ しょうじょう ばあい
次の症状がある場合は

ひなんじょうえい し
すぐに避難所運営スタッフにお知らせください

1. 風邪の症状や発熱がある、または熱っぽい
2. 上気道炎症症状（咳、鼻汁、咽頭痛など）がある
3. インフルエンザ様症状（全身がだるい、寒気、頭痛、関節痛
・筋肉痛など）がある
4. 咳があり、息苦しい又は血がまざった痰がでる
5. からだにぶつぶつ（発疹）が出ている
6. からだにぶつぶつ（発疹）が出ていて、かゆみや痛みがある
7. 唇や口の周りにぶつぶつ（発疹）が出ていて、痛みがある
8. 首がかたい感じがしたり、痛かったりする
9. 下痢便（水のような便、柔らかい便、形のない便、噴出すよ
うな便など）が出た
10. 吐いた、または吐き気がする
11. おなかが痛く、便に血がまざっている
12. 目が赤く、目やにが出ている
13. 創などがあり、膿がでたり、赤かったり、腫れていたり、痛か
ったりする

資料 2 5 避難所における隔離予防策

(1) 標準予防策

感染症の疑いのある避難者との接触時に実施する

1. 血液、体液、分泌物、排泄物への曝露が予想される場合、適切な個人用防護具※を着用する
2. 全ての個人用防護具は、使用した部屋／区域内で脱ぐ
3. 各避難者との接触前後に手指衛生を行う
4. 咳エチケットを行う
 - a. 咳をしている人にはマスクを着用してもらう
 - b. 咳をしている人にはティッシュを提供する
 - c. 咳やくしゃみをするときは、腕あるいは袖で押さえるように指導する
 - d. 感染性をもつ可能性のある人は、他の避難者からできるだけ2m（少なくとも1m以上）離す
5. 感染症の伝播を予防するために、布団／ベッドの間隔をできるだけ2m（少なくとも1m以上）空け、寝る向きは互い違い（お互いの足が見えるよう）にするのが望ましい

※個人用防護具：手袋、ガウン、ゴーグル、フェイスシールド、マスク等

(2) 飛沫予防策

飛沫予防策の適応となる感染症には季節性インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、百日咳などがある。

1. 飛沫感染症の症状・兆候のある避難者を他の避難者から離す
 - 1) 個室あるいは隔離室/区域に収容する
 - 2) 他の避難者からは空間的に分離する（他の避難者とできるだけ2m（少なくとも1m以上）離す）
 - 3) 症状のある避難者は隔離区域/部屋にいてもらう
 2. マスクを着用する
 - 1) 症状のある避難者と2m以内に近づく人は、マスクを着用する
 3. 飛沫予防策を行っている避難者との接触前後に手指衛生を行う
 4. 飛沫感染症が疑われる人が隔離室/区域を出る場合や他の人に近づく場合は、マスクを着用する
-

(3) 接触予防策

接触予防策の適応となるのは多剤耐性菌（MRSA、VRE 等）による感染症、新型コロナウイルス感染症、痘瘡、疥癬、しらみ、激しい嘔吐・下痢、さらに、創部から多量の滲出液が漏れるような場合である。標準予防策に追加して以下の予防策を実施する。

1. 接触予防策を要する症状・兆候のある避難者を他の避難者から離す
 - 1) 個室あるいは隔離室／区域に収容する
 - 2) 他の避難者からは空間的に分離する（他の避難者とできるだけ2m（少なくとも1m以上）離す）
 - 3) 症状のある避難者は隔離区域/部屋にいてもらう
 2. 隔離室／区域内にいる人のケアを行う人は、隔離室／区域に入る際に個人用防護具を着用する
 - 1) ガウン
 - 2) 手袋
 3. 接触予防策を行っている避難者との接触前後に手指衛生を行う
-

(4) 空気予防策

避難所で空気予防策を実施するのは非常に困難であり、災害時において必要となることは稀である。空気感染予防策の適応となる避難者は、可能な限り早急に避難所から医療機関に搬送することが必要である。空気予防策の適応となる感染症には、結核、水痘、麻疹、痘瘡、SARS、ウイルス性出血熱、鳥インフルエンザなどがある。

標準予防策に追加して、以下の対策を実施する。

1. 空気感染症の兆候・症状のある人を個室に収容する

1) 可能であれば陰圧個室を使用する

2) 一時的な陰圧室を作る場合：

(1) 他の避難者からは可能な限り離れた区域か、物理的に離れた区域（廊下や別棟）を選ぶ

(2) 少なくとも窓が一つある区域を選ぶ（窓は外気取入口や他の窓から 25 フィート=約 8m 以上離れているか、他の建物から 100 ヤード=約 90m 以上離れていること）

(3) 隔離区域が壁で閉鎖されていない場合は、何らかの方法で仕切りを設けること。仕切りを作る為に使用する素材は、それぞれの透過性をもとに選ぶこと。

・望ましい順にドライウォール、パーティクルボードあるいは他の木材、プラスチック、パーティションやスクリーン、カーテン、ベッドシーツ

・バリア素材は天井から床までできるだけ届くように据え付ける

(4) 以下のいずれかの方法で、隔離室/区域から排気して陰圧を作り出す

・据え置き室内空気循環システム

・ポータブル室内空気循環システム

・窓から空気を排気するための遠心送風機（風量が大きい扇風機を指す。）

・窓から空気を排気できる空気清浄機

・床／窓の換気扇を使用

－陰圧空調を作る際は施設エンジニアに相談すること

(5) 隔離室/区域の空気を、フィルターに通すことなく、避難所内のその他の区域に再循環させないようにする。空気は以下のいずれかの方法で濾過（フィルター）することができる。

望ましい順に：・超高性能（HEPA）フィルターを使用する

・ポータブル HEPA フィルターユニットを使用する。ユニットは、避難所スタッフの行動や隔離区域内の医療機器の邪魔にならないが、空気感染症のある患者のなるべく近くに設置する。－避難所スタッフの感染予防のために、空気感染症のある患者とポータブル HEPA フィルターユニットの空気取り込み口の間に立たないように指導される必要がある。

2. 隔離区域のドアは常時閉め、空気感染症のある避難者は隔離室/領域内で過ごしてもらう

3. 空気感染症のある避難者と 2m 以内で接する人は、N95 微粒子用マスクを着用する

4. 空気感染症のある避難者に接する前後は、手指衛生を行う

資料26 災害時のトイレの確保・管理にあたり配慮すべき事項

配慮をすべき事項・配慮が必要な方	対応
安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・暗がりにならない場所に設置する ・夜間照明を個室・トイレまでの経路に設置する ・屋外トイレの上屋は、堅牢なものとする ・トイレの固定、転倒防止を徹底する ・個室は施錠可能なものとする ・防犯ブザー等を設置する ・手すりを設置する
衛生・快適性	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ専用の履物を用意する（屋内のみ） ・手洗い用の水を確保する ・手洗い用のウェットティッシュを用意する ・消毒液を用意する ・消臭剤や防虫剤を用意する ・暑さ、寒さ、雨・風・雪対策を実施する ・トイレの掃除用具を用意する
女性・子供	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレは男性用・女性用に分ける ・生理用品の処分用のゴミ箱を用意する ・鏡や荷物を置くための棚やフックを設置する ・子供と一緒に入れるトイレを設置する ・オムツ替えスペースを設ける ・トイレの使用待ちの行列のための目隠しを設置する
高齢者・障害者	<ul style="list-style-type: none"> ・洋式便器を確保する ・使い勝手の良い場所に設置する ・トイレまでの動線を確保する ・トイレの段差を解消する ・福祉避難スペース等にトイレを設置する ・介助者も入れるトイレを確保する
外国人	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の掲示物を用意する（トイレの使い方、手洗い方法、消毒の方法等）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的トイレを設置する ・人口肛門、人口膀胱保有者のための装具交換スペースを確保する ・幼児用の補助便座を用意する